

編 修 趣 意 書

(教育基本法との対照表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-253	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修の基本方針

1. 古典や近現代のすぐれた文章に触れることにより、言語感覚を磨き、知識と教養を身に付け、豊かな感性や情緒を育むことができるようにした。
2. 生徒が自主的・主体的に学習活動を行うことにより、思考力・判断力・表現力を養い、自発的・創造的な人間形成に進むことができるよう考慮した。
3. 対話的・協働的な学習活動を積み重ねることにより、さまざまな社会的要請に応え得る人間性の育成に役立てられるようにした。
4. 人間・生命・自然などに目を向けさせ、それらが我が国の伝統と文化の中でどのように表現されてきたかを知ることができるように配慮した。
5. 歴史的・文化的背景を踏まえて国語文化を捉え、生徒一人一人がその伝統の担い手であることを自覚させることを期した。

2. 対照表

図書の構成・内容	特に意を用いた点や特色	該当箇所
現代文編	・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。	p. 40～p. 50 p. 54～p. 55 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87 p. 100～p. 108 p. 111～p. 122
	・韻文作品の鑑賞を通して、豊かな情操を養うことができるよう配慮した（第1号）。	p. 54～p. 64 p. 90～p. 97
	・「作者解説」「文学のしるべ」を適宜設定し、興味・関心に応じて知識と教養を広げられるようにするとともに、生徒を読書へ誘うようにした（第1号）。	p. 38 p. 39 p. 51 p. 52 p. 65～p. 66 p. 83 p. 88 p. 109 p. 110 p. 123 p. 124
	・自主・自律、労働といった、現実社会の諸問題を含む題材を採録し、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第2号）。	p. 26～p. 37 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87
	・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。	p. 84～p. 87 p. 98
	・生命、社会制度といった、現実の諸問題に深く関わる題材を採録し、生命を尊ぶ態度を養うとともに、生徒が自らの問題として考えを深めることができるよう配慮した（第4号）。	p. 58～p. 61 p. 68～p. 82 p. 84～p. 87
	・「随想」の単元を設定し、我が国の言語文化に理解を深める教材を用意した（第5号）。	p. 14～p. 24
古文編	・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。	p. 148～p. 149 p. 154～p. 159 p. 162～p. 167 p. 222～p. 227
	・「古文を読むために」を適宜設定して、文語のきまり等について知識を補えるようにした（第1号）。	p. 131～p. 133 p. 136～p. 137 p. 150～p. 152 p. 169～p. 172 p. 185～p. 186 p. 201～p. 202 p. 210～p. 211

	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 140 p. 146～p. 147 p. 182～p. 183 p. 192～p. 195 p. 198～p. 199
	<ul style="list-style-type: none"> ・古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。 	p. 128～p. 129 p. 134～p. 135 p. 154～p. 159 p. 162～p. 167 p. 174～p. 181 p. 218～p. 220
	<ul style="list-style-type: none"> ・古代の戦乱を取り上げた題材を採録し、人間の感情の普遍性を読み取ることによって、生徒が倫理や道徳の問題を現実にも即して考察できるよう配慮した（第4号）。 ・自然鑑賞に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。 	p. 188～p. 197 p. 162～p. 167 p. 204～p. 207
	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「古文の学習」以下、「作品解説」やコラム「古典のしるべ」等を適宜設定して、我が国の言語文化について、外国との関係や歴史的背景を踏まえて理解できるようにした（第5号）。 	p. 126～p. 127 p. 130 p. 135 p. 138～p. 139 p. 140 p. 145 p. 146～p. 147 p. 160 p. 161 p. 167 p. 168 p. 184 p. 200 p. 208 p. 209 p. 221 p. 228
漢文編	<ul style="list-style-type: none"> ・真理を探究する人間のさまざまなありようを示すことによって、生徒の人間性・社会性の涵養に働きかけられる題材を採録した（第1号）。 ・「漢文を読むために」「漢詩のきまり」を適宜設定して、漢文訓読のきまり等について知識を補えるようにした（第1号）。 	p. 240～p. 241 p. 244～p. 245 p. 248～p. 249 p. 274～p. 279 p. 233 p. 235 p. 237 p. 242～p. 243 p. 246～p. 247 p. 262～p. 263 p. 272 p. 286
	<ul style="list-style-type: none"> ・「言語活動」を通して、主体性を発揮して課題に取り組めるようにした（第2号）。 	p. 250～p. 252 p. 264 p. 281～p. 284
	<ul style="list-style-type: none"> ・古典における理念や社会秩序についての基本的な考え方に深く関わる題材を採録し、現代の社会や人間関係にも共通する問題として、生徒が考えを深められるようにした（第3号）。 	p. 256～p. 259 p. 260～p. 261 p. 266～p. 271 p. 274～p. 279
	<ul style="list-style-type: none"> ・自然鑑賞に深く関わる題材を採録し、表現を吟味する活動を通して、生命・自然を尊重する態度を養えるよう配慮した（第4号）。 	p. 254～p. 255
	<ul style="list-style-type: none"> ・冒頭の「漢文の学習」以下、漢文が我が国の言語文化に与えた影響について理解できるようにした（第5号）。 ・「作品解説」やコラム「古典のしるべ」を適宜設定して、中国の歴史的背景を踏まえて作品等を理解できるようにした（第5号）。 	p. 230～p. 231 p. 232 p. 234 p. 236 p. 240～p. 252 p. 260～p. 261 p. 264 p. 280 p. 285

3. 上記の記載事項以外に特に意を用いた点や特色

- ・第二条第3号及び、学校教育法第51条1号「国家及び社会の形成者として必要な資質を養うこと」、また、第3号「社会について、広く深い理解と健全な批判力を養い、社会の発展に寄与する態度を養うこと」を踏まえ、各編の各教材の最後に「学習の手引き」「言語活動の手引き」「言葉の手引き」といった課題を用意し、発表や話し合いを含む多様な学習活動を設定した。教材の内容や構成などについて理解を深め、自らの考えを的確に表現する資質・能力を養うとともに、生徒相互の意見交流を通じて、多角的で客観性のある批判的思考能力を養えるよう配慮した。
- ・書体にユニバーサルデザインフォントを取り入れたほか、カラーユニバーサルデザインにも配慮し、すべての生徒にとって学びやすい紙面となるよう配慮した。

編 修 趣 意 書

(学習指導要領との対照表、配当授業時数表)

受理番号	学校	教科	種目	学年
106-253	高等学校	国語科	言語文化	
※発行者の 番号・略称	※教科書の 記号・番号	※教科書名		

1. 編修上特に意を用いた点や特色

①単元構成・教材選定

- ・国語の資質・能力を育成し、我が国の言語文化に対する理解を深めるため、全体を「現代文編」「古文編」と「漢文編」の三編で構成し、各編は文種（ジャンル）を基本にした単元構成として、系統的に学習ができるように教材を配置した。
- ・「現代文編」は、近代以降の小説と詩歌、および、我が国の言語文化を題材にした作品を取り上げた。
- ・「古文編」は、古文、および、我が国の言語文化を題材にした近代以降の作品を取り上げた。
- ・「漢文編」は、漢文、および、日本漢文を取り上げた。
- ・教材の選定にあたっては、生徒の発達段階や中学校の国語科との接続にも配慮して、高校生として知っておくべき評価の定まった作品から厳選することを旨とした。
- ・各単元の扉に、該当単元の教材で何を学ぶかを「学習のねらい」として示し、教材の意図を学習者全体で共有しながら学びに取り組むことができるようにした。

→「生徒の主体的・対話的で深い学びの実現を図る」ための配慮。

②[知識及び技能]への対応

- ・「言葉の手引き」（現代文・古文）や和歌の修辞に関する「古文を読むために」（古文）を設定したり、「注意すべき語句」（現代文）・「重要古語」（古文）・「基本句形」（漢文）を抽出したりして、「B読むこと」の内容と関連づけながら、漢字・語句・表現技法・文法等の知識を深めるとともに、文脈の中で語感を磨き、語彙を豊かにできるようにした。
- ・古文では「古文を読むために」、漢文では「漢文を読むために」を設定して、「B読むこと」の内容と関連づけながら、古典を読むために必要な文語のきまりや訓読のきまりを系統的に学習できるようにした。また、「作品解説」やコラム「古典のしるべ」を設け、我が国の言語文化の特質や外国の文化との関係、作品の歴史的・文化的背景などについて、理解を深めることができるようにした。
- ・現代文では作品ごとに「作者解説」を付し、出典の情報を示して読書につながる興味づけを図った。また、小説に関しては「文学のしるべ」を設け、読書の幅を広げることができるように意図した。
- ・巻頭に巻頭特集「古典の世界と現代とを比べる」「つながる言語文化」、巻末に資料編、巻末図録・地図を用意し、豊富な資料や写真・図版を掲載して、知識をより深めるための一助とした。

③[思考力、判断力、表現力等]への対応

- ・「A書くこと」に関しては、言語活動を主体として教材を設定し、具体的な活動を通して表現力や想像力を高め、自分の考えを広げて伝え合う能力を育成することを旨とした。
- ・「B読むこと」に関しては、脚注の「問」、および「学習の手引き」「言語活動の手引き」の三つの課題設定によって、作品の内容理解を深め、興味を広げることができるようにした。
 - ※「問」は、本文を解釈するうえでポイントとなる箇所、内容理解を確認する目的で示した。
 - ※「学習の手引き」は、文章全体の構成や展開の把握と、「学習のねらい」に沿った内容の解釈との、基本的に二つの事柄を行うことを主旨として設定した。
 - ※「言語活動の手引き」は、本文を学習して得た知識や、本文に関連する事柄などをもとにして、文章を書いて発表したり、調査・報告を行ったりするなど、「読むこと」と「書くこと」の両方に関わる言語活動を行うことを主旨として設定した。活動に取り組むうえで導入や別文章・別資料が必要となるものについては、別ページに独立させて、教材「言語活動」として設定した。

図書の構成・内容			学習指導要領の内容				該当箇所	配当時数			
編	単元	教材	知識及び技能		思考力・表現力・判断力等			書くこと	読むこと	計	
			(1)	(2)	書くこと (1)	書くこと (2)	読むこと (1)	読むこと (2)			
現代文編	随想を読む	・本と出会う(若松英輔) ・わたしの好きな季語(川上弘美)	イ・ウ	カ			ア・イ・ウ・オ	イ	p.14～p.18	2	2
	小説を読む(一)	・とんかつ(三浦哲郎) [作者解説]三浦哲郎 [文学のしるべ]ことばで召し上がれ——食べ物と文学 ・よろこびの歌(宮下奈都) [作者解説]宮下奈都 [文学のしるべ]物語の場所としての「学校」	イ・ウ・エ				ア・イ・ウ	イ	p.19～p.24 p.26～p.38 p.39 p.40～p.51 p.52	2	2
	詩の楽しみ	・道程(高村光太郎) ・小景異情(室生犀星) ・I was born(吉野弘) ・二十億光年の孤独(谷川俊太郎) [作者解説]高村光太郎・室生犀星・吉野弘・谷川俊太郎	オ	ア			イ・ウ	イ	p.54～p.66	4	4
	小説を読む(二)	・羅生門(芥川龍之介) [作者解説]芥川龍之介 [言語活動]読み比べる・今昔物語集 [文学のしるべ]芥川龍之介の王朝物と歴史小説	イ・ウ				ア・イ	イ	p.68～p.83 p.84～p.87 p.88	2	2
	短歌と俳句	・ゆびさきの温みを一短歌— ・細胞の全部が私—俳句— [言語活動]折句を用いて短歌を作る	オ	ア			ア・イ	イ	p.90～p.93 p.94～p.97 p.98	2	2
	小説を読む(三)	・夢十夜(夏目漱石) [作者解説]夏目漱石 [文学のしるべ]夢の中で自分の知らない自分に出会う ・鏡(村上春樹) [作者解説]村上春樹 [文学のしるべ]世界文学の中のハルキ・ムラカミ	イ・ウ	カ			ア・イ・ウ	イ・ウ	p.100～p.109 p.110 p.111～p.123 p.124	2	2
	古文入門	・古文の学習 ・児のそら寝 [作品解説]宇治拾遺物語 ・古文を読むために1 ・三文にて菌二つ [作品解説]沙石集 ・古文を読むために2 [古典のしるべ]平仮名の誕生 [言語活動]くずし字を読んでみよう	ア	ア			オ		p.126～p.127 p.128～p.130 p.131～p.133 p.134～p.135 p.136～p.137 p.138～p.139 p.140	0.5	0.5
	古文に親しむ	・なよ竹のかぐや姫 [作品解説]竹取物語 [言語活動]古典から受け継がれる話の由来を調べる ・絵仏師良秀 ・古文を読むために3	ウ	イ・ウ・エ			ア・イ	イ	p.142～p.145 p.146～p.147 p.148～p.149 p.150～p.152	1	1
	随筆を読む	・徒然草 [作品解説]徒然草 [古典のしるべ]随筆文学 ・枕草子 [作品解説]枕草子 [古典のしるべ]後宮の文学サロン ・古文を読むために4	ウ・エ	イ・ウ			ア・イ・ウ	イ	p.154～p.160 p.161 p.162～p.168 p.167 p.169～p.172	3	3
	歌物語を読む	・伊勢物語 [作品解説]伊勢物語 [言語活動]描かれた『伊勢物語』を調べる ・古文を読むために5	ウ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ・ウ	p.174～p.181 p.184 p.182～p.183 p.185～p.186	2	2
	軍記物語を読む	・平家物語 [言語活動]読み比べる・宇治川の先陣 [作品解説]平家物語 [言語活動]現代に受け継がれる古典 ・古文を読むために6	ウ	ウ			ア・イ	イ	p.188～p.197 p.200 p.198～p.199 p.201～p.202	1	1
	和歌の鑑賞	・万葉・古今・新古今 [作品解説]万葉集・古今和歌集・新古今和歌集 [古典のしるべ]和歌の伝統と継承 ・古文を読むために7 ・短歌を詠す(俵万智)	ウ・オ	ア・イ・ウ			ア・イ	イ	p.204～p.208 p.209 p.210～p.211 p.212～p.216	1	1
	日記・紀行文を読む	・土佐日記 [作品解説]土佐日記 ・奥の細道 [作品解説]奥の細道	ウ	イ・ウ			ア・イ	イ	p.218～p.221 p.222～p.228	1	1
	漢文入門	・漢文の学習 ・訓読に親しむ(一) ・漢文を読むために1 ・訓読に親しむ(二) ・漢文を読むために2 ・訓読に親しむ(三) ・漢文を読むために3	ア	ア			オ		p.230～p.231 p.232 p.233 p.234 p.235 p.236 p.237～p.238	0.5	0.5
	故事成語	・矛盾 ・漢文を読むために4 ・五十歩百歩 ・漢文を読むために5 ・蛇足 [言語活動]故事成語の由来と意味を調べる	ウ	ア・ウ・エ			ア・イ	イ	p.240～p.241 p.242～p.243 p.244～p.245 p.246～p.247 p.248～p.249 p.250～p.252	1	1
漢詩の鑑賞	・唐詩の世界 ・日本の漢詩 ・漢詩のきまり [言語活動]読み比べる・漢詩と訳詩	オ	ア・ウ			イ・ウ	イ	p.254～p.259 p.260～p.261 p.262～p.263 p.264	3	3	
史伝を読む	・鶏口牛後 ・完璧 ・先從陳始 ・漢文を読むために6	ウ	イ・ウ			ア・イ・エ	イ	p.266～p.267 p.268～p.269 p.270～p.271 p.272	1	1	
中国の思想	・論語 [作品解説]論語 [言語活動]孔子のエピソードを調べる [古典のしるべ]孔子の生きた時代 ・漢文を読むために7	ア	イ・ウ			ア・イ	イ	p.274～p.280 p.281～p.284 p.285 p.286	3	3	
								計	6	64	

耶	俱	搔	匙	鱒	笹	讚	凜	鬢	娑	檀	梵	峻	憐	宋	荆	鑿	穿	套	篇	鞞	芥	臥	煌	漱	吾	秦	蛙	弘	薺	輔	庵	蕉	芭	漢字	
39	39	39	39	38	38	38	36	35	33	32	32	32	32	31	31	29	29	27	26	24	24	22	22	21	20	20	20	19	16	14	13	13	13	ハﾟｰｼﾞ	
龍	衿	權	挽	朔	萩	欒	杏	鞞	智	灼	裡	腑	蛭	蛭	訝	諒	靄	或	抒	犀	魄	桐	噂	辻	雀	這	堵	闊	迂	柴	玲	魯	哉	漢字	
67	66	66	65	65	65	65	65	65	65	60	60	60	59	59	59	59	58	58	56	56	54	52	52	52	49	48	42	40	40	40	40	39	39	ハﾟｰｼﾞ	
鬢	摺	軀	焉	游	蛛	蜘蛛	羹	拗	弩	檜	爬	鞘	衫	桶	逢	薨	袷	糞	鴟	棲	狸	狐	鴨	菅	箔	洛	饅	烏	揉	笠	之		漢字		
86	86	85	83	83	83	83	83	79	77	76	75	74	73	73	72	72	72	70	70	70	70	70	70	69	68	68	68	68	68	68	68	68	67	ハﾟｰｼﾞ	
屑	袍	槌	吻	苔	阿	沓	薇	薔	紗	蝮	兜	邨	楸	鰯	燕	鳩	濤	吊	懺	毳	豹	埃	蟻	屍	蝶	磨	啄	祇	伊	靖	儘	其	鷗	漢字	
106	105	105	103	102	98	98	98	98	96	96	96	96	96	96	95	95	95	95	94	94	92	92	92	92	92	91	90	89	88	88	88	88	88	ハﾟｰｼﾞ	
醐	醍	蓮	彦	瞞	袴	裳	洒	於	尔	已	蒙	纂	疵	慳	撥	譚	叡	撰	噪	喧	李	楊	牽	髭	呆	馴	吞	噓	浩	綴	閒	迄	檉	漢字	
149	149	149	145	145	143	143	142	139	139	136	135	135	135	134	131	130	128	126	124	124	124	124	123	121	119	116	113	112	110	110	110	109	107	ハﾟｰｼﾞ	
楓	蔦	駿	琶	琵琶	萊	蓬	霞	簾	卿	葵	雛	塵	瓜	雁	稀	邁	厭	卜	柑	伽	闕	樋	栖	栗	帖	婉	鞠	臈	梢	掟	幡	硯	臚	漢字	
175	175	175	172	172	171	171	171	168	164	164	164	164	164	162	161	161	160	160	158	158	158	158	158	157	156	156	156	156	156	156	154	154	151	ハﾟｰｼﾞ	
嵩	佇	胤	撓	筵	馳	鞍	筏	鐙	梶	橘	寅	丑	轡	桂	杭	畠	淀	蹤	櫛	嵌	蒔	屏	峨	嵯	惣	杓	筥	鳴	嘴	嶺	棲	褻	琳	漢字	
193	193	191	190	190	190	189	189	189	189	189	189	189	189	188	188	188	188	184	183	183	183	182	182	182	182	180	180	176	176	176	175	175	175	ハﾟｰｼ	
啼	甫	杜	也	墅	灸	禎	嘉	濤	戌	掬	遙	灘	躬	舒	筑	茅	沫	苔	蟀	蟋	櫃	岑	壬	濡	矚	苑	勿	顛	冑	敦	斐	遙	跨	漢字	
223	222	222	222	222	222	221	221	220	218	211	210	210	208	208	206	206	206	206	206	206	205	205	205	204	204	204	200	198	198	198	197	195	194	ハﾟｰｼﾞ	
孟	倨	胡	荀	寓	弗	曰	楚	堯	舜	鬻	乎	憚	爾	盍	蕪	嘗	鳴	捷	莫	訥	而	朋	敲	祿	笈	簞	薩	菩	陀	頽	卯	耀	荼	漢字	
243	243	243	241	241	240	240	240	240	240	238	238	238	237	237	237	237	235	234	234	234	231	231	228	228	228	228	225	225	225	225	224	224	223	ハﾟｰｼﾞ	
簪	渾	烽	濺	咸	疆	陝	浥	渭	牀	鮑	杞	瀚	聚	雍	祀	乃	謂	卮	祠	軫	雖	苟	鄒	輿	軻	趙	魏	晉	亦	曳	梁	愈	豈	漢字	
257	257	257	257	256	256	256	256	256	253	252	252	250	251	251	248	248	248	248	248	248	247	247	245	245	245	244	244	244	244	244	244	243	243	ハﾟｰｼﾞ	
隗	澠	卞	紕	藺	淳	肛	諺	鄙	擯	并	蘇	鶯	頸	頷	聯	擲	逍	汲	姜	懊	儲	薑	裏	寥	仍	廬	匡	欽	怕	衾	慵	羌	鄺	漢字	
270	269	268	268	268	267	267	267	267	266	266	266	264	263	263	263	261	261	261	260	260	260	260	260	260	258	258	258	258	258	258	258	257	257	ハﾟｰｼﾞ	
窪	蛉	蜻	凌	播	侶	莉	茉	翔	宏	壕	塹	耽	樺	賤	圃	鞭	殷	淵	誨	斯	桓	恕	譬	矩	踰	殆	罔	愠	疏	趨	涓	讐	噲	漢字	
294	294	294	294	294	294	293	293	293	292	291	291	290	290	290	290	289	285	283	283	283	282	277	276	275	275	274	274	274	273	271	271	270	270	ハﾟｰｼﾞ	
孰	幌	倚	聊	蒲	攀	滸	烹	亥	脩	曄	羲	奘	睿	亮	蕭	韋	蜀	蔡	莽	匈	騫	垓	鴻	焚	夷	禹	邑	紂	桀	誹	玖	菟	軾	漢字	
311	310	310	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	297	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	296	295	295	295	294	ハﾟｰｼﾞ	
																							奢 胥 胆 辰 懶 纔 矣 噫 嗟												漢字
																							317 316 316 316 315 313 311 311 311												ハﾟｰｼﾞ

常用漢字以外の使用漢字一覧表

音訓一覧表

漢字																																												音訓	
朱欒	理	謝	肯	咽喉	撰	為	暫	幼	怪	眼	乞食	充	谷	三	深	雲雀	彈	括	御	温又柔	魯肉飯	寿	井伏鱒二	太宰治	凍	他人	吉	洞	発	丹生	明後日	越	三戸	郎	真	更	立待	待	欠伸	吾妻	太秦	東	愛		
ザンボア	ことわり	さ	うなず	のど	と	ため	しばら	おさ	け	め	かたゐ	み	や	さぶ	み	ひばり	はじ	くく	み	おんゆうじゅう	ロバブン	す	いぶせますじ	だざいおさむ	い	ひと	よし	とう	た	にゆう	あさつて	えち	さんのへ	お	まな	ふけ	たちまち	まつ	あくび	あずま	うずまさ	あずま	いつく		
65	65	65	60	60	60	59	59	59	59	58	56	54	52	52	52	49	44	42	40	39	39	39	38	38	33	32	31	31	30	29	29	29	26	26	24	23	22	22	21	20	20	20	16		
抛	井上	遺	葬	衣	御髪	主	朱雀	辺	撰津	語	上層	城	鶴	河童	上海	保	切支丹	久米	手巾	戯	黒洞々	春	疫病	往	太刀帯	奪	検	鶏	檜皮	聖柄	汗衫	吹	築土	申	料	烏帽子	朱雀	丹	介	好	三	陽	入		
よ	いのうえ	のこ	はうぶ	きぬ	みぐし	あるじ	しゅじやく	わたり	つ	こと	うはこし	せい	かく	かつぱ	シャンハイ	やす	クリシタン	くめ	ハンケチ	げ	こくとうとう	とう	えやみ	い	たてわき	と	け	とり	ひわだ	ひじりづか	かざみ	ぶき	ついじ	さる	しろ	えぼし	すざく	に	すけ	よし	ぞう	ひ	いり		
88	88	88	87	86	86	86	84	84	84	84	84	84	83	83	83	83	83	83	83	83	81	79	79	79	79	78	78	77	75	73	73	73	72	71	68	68	68	68	67	66	66	66	66		
件	過	虞	分	坊	込	蔵	薪	暴風	家	眉	直垂	日本武尊	照	百合	斜	標	破片	色沢	給	米	徒然草	沓冠	巻	隠	飾	男	当	万	近藤芳美	詞		柿本人麿	盛	遠	添	河	不来方	生活	猶	祇園	晶	温	伊勢		
くだん	すぎ	ぐ	わき	ぼ	ごめ	かく	まき	あらし	うち	まみえ	ひたたれ	やまとだけのみこと	うつ	ゆり	はす	じるし	かけ	つや	たま	よね	つれづれぐさ	くつかぶり	けん	お	しか	お	あた	ま	こんどうよしみ	ことば	ろ	かきのもとひとま	もり	とほ	そひ	かは	こずかた	くらし	なほ	ぎをん	あき	ぬく	いせ		
110	109	109	109	109	109	107	107	107	107	107	105	105	104	103	103	101	101	101	98	98	98	98	96	96	95	95	94	92	92	91		91	91	91	91	91	90	90	90	90	90	88			

音訓一覽表

漢字																																				漢字	
部 違 章 樹 主人 点 煙草 癒 奴 向 吸 終り 並行世界 康成 夫 映 峰逸 英 曆 田 辺 児 宇治拾遺 出 公家 光信 源隆国 職 御曹司 枕草子 沙石集 唐 養 末 然 取 翁 造 末 川 支 遠 者 本																																				ベ ちがい あき き ホスト つ たばこ いや やつ むか すい おわり パラレルワールド やすなり お え ヤンイー み ひで りやく たなべ ちこ うだしふゐ い くげ みつのぶ みなもとのたかくに しき みぎうし まくらのそうし しやせきしふ たう やう いま しか とり おきな みやつこ ま つ き を は ほ	音訓
110 110 110 111 111 113 115 119 119 120 120 121 123 123 124 124 124 124 124 124 125 127 128 128 128 128 129 128 128 128 124 124 124 124 123 123 139 139 139 139 139 137 137 137 137 137 137 137 139																																					

音訓一覧表

漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ	漢字	音訓	ページ
和泉	いずみ	182	改作	アダプテーション	198	従兄弟	いとこ	207
燕子花	かきつばた	182	実隆	さねたか	199	滝水	りようすい	207
立	たて	183	繁	しげ	199	咽せんで	むせんで	207
信	のぶ	183	虚構	フィクション	199	旋頭歌	せどうか	208
初冠	ういこうぶり	184	信濃前司行	しなののぜんじゆき	200	凡河内躬恒	おおしこうちのみつ	208
在原業平	ありわらのなりひら	184	長	なが		ね		
世阿弥	ぜあみ	184	為	し	201	淑望	よしもち	208
被	かぶ	184	案	あ	201	通具	みちとも	208
尽歌合	づくしうたあわせ	187	冠	かうぶり	202	有家	ありいえ	208
宇治川	うぢがは	188	出光	いでみつ	203	雅経	まさつね	208
一口	いもあらひ	188	天平勝宝	てんぴやうしようほ	204	峰	を	210
生年	しやうねん	188	う			長雨	ながめ	210
源義経	みなもとのよしつね	188	暮	ゆふへ	204	節	よ	210
以仁	もちひと	188	春苑	しゆんゑん	204	入集	にっしゅう	211
頼政	よりまさ	188	桃李	たうり	204	三年	みとせ	216
近江	あふみ	189	眺矚	てうしよく	204	今宵	こよひ	216
治承	ぢしよう	189	大伴家持	おほとものやかもち	204	新枕	にひまくら	216
又太郎忠綱	またたらうただつな	189	紅	くれなゐ	204	日記	にき	218
梶原源太景	かぢはらげんだかげ	189	紀貫之	きのつらゆき	204	十二月	しはす	218
季	すゑ		後鳥羽	ごとば	204	二十日	はつか	218
四郎	しらう	189	旅人	たびと	204	県	あがた	218
段	たん	189	柿本朝臣	かきのもとのあそみ	205	年	とせ	218
大河	だいが	189	浜木綿	はまゆふ	205	館	たち	218
腹帯	はるび	189	百重	ももへ	205	二十二日	はつかあまりふつか	219
頼通	よりみち	189	寛平御時后	くわんぴやうのおほ	205	和泉	いづみ	219
大綱	おほづな	190	宮歌合	んとききさいのみや	205	平	たひ	219
生食	いけずき	190	壬生忠岑	のうたあはせ	205	願	ぐわん	219
頼朝	よりとも	190	藤原俊成女	みぶのただみね	205	醉	むま	219
大音声	だいおんじやう	191	のむすめ	ふぢはらのとしなり	205	潮	ゑ	219
宇多	うだの	191	かばね		205	濤標	みおつくし	220
三郎秀義	さぶらうひでよし	191	姓	ゆはらのおほきみ	206	土佐守	とさのかみ	221
洗	あらい	192	湯原王	ゆふづくよ	206	為家	ためいえ	221
磨	する	193	夕月夜	としゆき	206	松尾芭蕉	まつをばせう	221
大音声	だいおんじよう	193	敏行	さいぎやう	206	百代	はくたい	222
近江	おうみ	193	西行	さいぎやう	206	過客	くわかく	222
水面	みなも	193	定家	さだいへ	206	去年	こそ	222
時節	とき	193	大宰相大伴	だざいのそちおほと	206	江上	かうしやう	222
莊司	しょうじ	194	卿	もきやう	206	破屋	はをく	222
武士	もののふ	194	京	みやこ	206	白河	しらかは	222
那須与一	なすのよいち	198	憶ふ	おもふ	206	杉風	さんふう	222
通盛	みちもり	198	義清	のりきよ	206	別墅	べつしよ	222
忠度	ただのり	198	二見浦	ふたみがうら	207	夫	そ	222
実盛	さねもり	198	友則	ともりの	207	逆旅	げきりよ	222
清経	きよつね	198	俊成	としなり	207			222

音訓一覽表

[illegible]

音訓一覽表

[illegible]

出典一覧表

〔国語教材〕

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
14～17	本と出会う	国語教材	本を読めなくなった人のための読書論 (初版第2刷)	112～118	若松英輔	亜紀書房	2019年	
19～23	私の好きな季語	国語教材	私の好きな季語 (第1刷)	8～9、124～125	川上弘美	NHK出版	2020年	
26～36	とんかつ	国語教材	完本 短篇集モザイク (初版)	32～39	三浦哲郎	新潮社	2010年	
40～49	よろこびの歌	国語教材	よろこびの歌 (初版第8刷)	24～41	宮下奈都	実業之日本社	2019年	
54	道程	国語教材	高村光太郎全集 第一巻 (初版)	253	高村光太郎	筑摩書房	1957年	
56	小景異情	国語教材	室生犀星全集 第一巻 (第2刷)	25～26	室生犀星	新潮社	1965年	
58～60	I was born	国語教材	現代詩文庫12 吉野弘 (第22刷)	29～30	吉野弘	思潮社	1990年	
62～63	二十億光年の孤独	国語教材	谷川俊太郎詩集 (第11刷)	106～107	谷川俊太郎	思潮社	1979年	
68～81	羅生門	国語教材	芥川龍之介全集 第一巻 (第2刷)	127～136	芥川龍之介	岩波書店	1977年	
84～87	今昔物語集	国語教材	新日本古典文学大系37 (初版)	335～336	作者未詳	岩波書店	1996年	
90	清水へ・夏のかぜ	国語教材	定本 与謝野晶子全集 第一巻 (第1刷)	5、162	与謝野晶子	講談社	1979年	
90～91	はたらけど・不來方の	国語教材	石川啄木全集 第一巻 (初版第2刷)	19、27	石川啄木	筑摩書房	1978年	
91	白鳥は・幾山河	国語教材	若山牧水全集 第一巻 (初版)	41、68	若山牧水	雄鶏社	1958年	
91	死に近き・あかあかと	国語教材	斎藤茂吉全集 第一巻 (初版)	97、216	斎藤茂吉	岩波書店	1973年	
92	たちまちに・生き行くは	国語教材	定本 近藤芳美歌集 (第2刷)	39、101	近藤芳美	短歌新聞社	1979年	
92	夏蝶の・わがカヌー	国語教材	寺山修司全歌集 (初版)	224、176	寺山修司	沖積舎	1982年	
92～93	思い出の・「寒いね」と	国語教材	サラダ記念日 俵万智歌集 (19版)	12、18	俵万智	河出書房新社	1987年	
93	ゆびさきの・水が生まれるまでの	国語教材	青卵 (第1刷)	44、212	東直子	筑摩書房	2019年	
94	手毬唄	国語教材	定本 高浜虚子全集 第二巻 (初版)	76	高浜虚子	毎日新聞社	1973年	
94	遠山に	国語教材	定本 高浜虚子全集 第一巻 (初版)	16	高浜虚子	毎日新聞社	1974年	
94	分け入つても・うしろすがたの	国語教材	山頭火全集 第一巻 (第1刷)	4、18	種田山頭火	春陽堂書店	1986年	
95	吊橋や・滝落ちて	国語教材	水原秋桜子全集 第三巻 (第1刷)	201、408	水原秋桜子	講談社	1977年	
95	雪はげし・乳母車	国語教材	橋本多佳子全集 第一巻 (第2刷)	130、166	橋本多佳子	立風書房	1990年	
95	万緑の・校塔に	国語教材	中村草田男全集 1 (初版)	126、56	中村草田男	みすず書房	1989年	
96	鰯雲・隠岐やいま	国語教材	加藤楸邨全集 第一巻 (第1刷)	123、331	加藤楸邨	講談社	1981年	
96	湾曲し・冬眠の	国語教材	金子兜太集 第一巻 (初版第1刷)	111、369	金子兜太	筑摩書房	2002年	
96	細胞の・眠れない	国語教材	句集 すみれそよぐ (初版)	11、161	神野紗希	朔出版	2020年	
100～107	夢十夜	国語教材	漱石全集 第八巻 (初版)	32～35、48～50	夏目漱石	岩波書店	1966年	
111～121	鏡	国語教材	村上春樹全作品1979～1989⑤ 短篇集Ⅱ (第1刷)	73～79	村上春樹	講談社	1991年	
128～129	児のそら寝	国語教材	新日本古典文学大系42 (第4刷)	24～25	編者未詳	岩波書店	1994年	
134～135	三文にて歯二つ	国語教材	新編日本古典文学全集52 (初版)	427～428	無住道暁	小学館	2001年	
142～144	なよ竹のかぐや姫	国語教材	新日本古典文学大系17 (初版)	3～4	作者未詳	岩波書店	1997年	

申請図書			出典					備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
148～149	絵仏師良秀	国語教材	新日本古典文学大系42（第4刷）	82～83	編者未詳	岩波書店	1994年	
154～159	徒然草	国語教材	角川ソフィア文庫（第22版）	14、59～60、111、 23～24	兼好法師	KADOKAWA	2019年	
162～167	枕草子	国語教材	新日本古典文学大系25（第2刷）	3～4、152、 194～195、136～137	清少納言	岩波書店	1993年	
174～181	伊勢物語	国語教材	新日本古典文学大系17（初版）	87～90、104～106	作者未詳	岩波書店	1997年	
188～191	平家物語	国語教材	新日本古典文学大系45（初版）	122～123	作者未詳	岩波書店	1993年	
192～193	中山義秀訳 平家物語	国語教材	現代語訳平家物語（中）（初版）	309～311	中山義秀	河出書房新社	2004年	
193～195	古川日出男訳 平家物語	国語教材	池澤夏樹＝個人編集 日本文学全集09	535～538	古川日出男	河出書房新社	2016年	
204	春の苑	国語教材	新編日本古典文学全集9（初版）	295	大伴家持	小学館	1996年	
204	袖ひちて	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	31	紀貫之	小学館	1994年	
204	ほのぼのと	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	23	後鳥羽院	小学館	1995年	
205	み熊野の	国語教材	新編日本古典文学全集6（初版）	281	柿本人麻呂	小学館	1994年	
205	暮るるか	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	84	壬生忠岑	小学館	1994年	
205	橘の	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	87	藤原俊成女	小学館	1995年	
206	夕月夜	国語教材	新編日本古典文学全集7（初版）	339	湯原王	小学館	1995年	
206	秋来ぬと	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	89	藤原敏行	小学館	1994年	
206	見渡せば	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	117	藤原定家	小学館	1995年	
206	沫雪の	国語教材	新編日本古典文学全集7（初版）	371	大伴旅人	小学館	1995年	
207	雪降れば	国語教材	新編日本古典文学全集11（初版）	145	紀友則	小学館	1994年	
207	かつ凍り	国語教材	新編日本古典文学全集43（初版）	187	藤原俊成	小学館	1995年	
212～216	古典の和歌を現代の言葉で書き換える	国語教材	言葉の虫めがね（初版）	78～86	俵万智	角川書店	1999年	
218～219	土佐日記	国語教材	新日本古典文学大系24（初版）	3	紀貫之	岩波書店	1989年	
222～225	奥の細道	国語教材	日本古典文学大系46（第9刷）	70～71、84～85	松尾芭蕉	岩波書店	1962年	
240	矛盾	国語教材	韓非子（漢文大系本）（初版）	第8巻	韓非	富山房	1988年	
244	五十歩百歩	国語教材	孟子（十三経注疏本）（初版）	第1冊	孟軻	新文富出版	1981年	
248～249	蛇足	国語教材	戦国策（初版）	上巻 355～356	劉向	上海古籍出版社	1978年	
254	春暁	国語教材	孟浩然集（四部叢刊本）（初版）	第33冊 31	孟浩然	商務印書館	1979年	
255	静夜思	国語教材	李太白集（四部叢刊本）（初版）	第32冊 127	李白	商務印書館	1979年	
256	送元二使安西	国語教材	王右丞集（四部叢刊本）（初版）	第33冊 40	王維	商務印書館	1979年	
257	春望	国語教材	杜工部集（四部叢刊本）（初版）	第32冊 67	杜甫	商務印書館	1979年	
258	香炉峰下新卜山居草堂初成偶題東壁	国語教材	白氏文集（四部叢刊本）（初版）	第36冊	白居易	商務印書館	1979年	
260	読家書	国語教材	日本古典文学大系72（第3刷）	506	菅原道真	岩波書店	1969年	
260～261	桂林荘雑詠、示諸生	国語教材	遠思樓詩鈔（淡窓全集 中巻）（初版）	11	広瀬淡窓	日田郡教育会	1926年	
261	道情	国語教材	逍遙遺稿（正編・外編）（初版）	165	中野逍遙	創風社出版	2012年	
264	春暁・静夜思	国語教材	鶯の卵（初版）	5108	土岐善麿	筑摩書房	1985年	
264	春暁・静夜思	国語教材	井伏鱒二全集 第28巻（初版）	36、43	井伏鱒二	筑摩書房	1999年	

申 請 図 書			出		典				備考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等		
266～267	鶏口牛後	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第9刷）	第5巻 68	曾先之	富山房	1990年		
268～269	完璧	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第3刷）	第5巻 69～70	曾先之	富山房	1978年		
270～271	先從隗始	国語教材	十八史略（漢文大系本）（第9刷）	第5巻 85～86	曾先之	富山房	1990年		
274	子曰、「学而時習之。…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
274	子曰、「学而不思、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 6	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「吾十有五而志于学。…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 5	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「温故而知新、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 6	孔子	中華書局出版	1987年		
275	子曰、「古之学者為己、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 56	孔子	中華書局出版	1987年		
276	子曰、「巧言令色、鮮矣仁。」	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
276	子貢曰、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 62	孔子	中華書局出版	1987年		
276～277	有子曰、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 1	孔子	中華書局出版	1987年		
277	子貢問曰、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 23	孔子	中華書局出版	1987年		
278	子曰、「道之以政、…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 5	孔子	中華書局出版	1987年		
278	子貢問政。…	国語教材	論語（十三經注疏）（第4刷）	下巻 47	孔子	中華書局出版	1987年		
281～284	若者への応援歌	国語教材	NHK「100分de名著」ブックス 孔子 論語（第13刷）	5、14～16、34～37	佐久協	NHK出版	2021年		

※上記のもの以外については、編集委員による書き下ろしである。

〔図・地図〕

申 請 図 書			出 典					備 考
ページ	名 称	種別	名 称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
155	石清水八幡宮	図	都名所図会	巻五	竹原信繁		1786年	左の出典をもとに作製

※上記のもの以外については、自社で作製。

出典一覧表

[写真]

申請図書			出典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
見返③	春(桜)	写真						素材辞典:Vol.146 No.40
見返③	夏(平泉 高館からの北上川の眺め 8月)	写真						PIXTA:80924731
見返③	秋(竹林と月)	写真						素材辞典:Vol.146 No.130
見返③	冬(廬山 五老峰・香炉峰・漢陽峰雪)	写真						CPC:JBD-553
見返⑥	万里の長城	写真						ゲッティイメージズ:670221190
見返⑥	黄河	写真						時事通信フォト:029819646
見返⑥	長江(江南地方)	写真						アフロ:240504087
見返⑥	黄鶴楼	写真						アフロ:21163081
見返⑥	陽関跡	写真						アフロ:7342638
13	関口芭蕉庵の池	写真						時事通信フォト:11911778
16	薺	写真						アーテファクトリー:25800191
18	若松英輔	写真						若松英輔
20	牛祭	写真						朝日新聞社:P160520002505
20	東コート	写真						フォトオリジナル:4519329
24	川上弘美	写真						朝日新聞社:P170808000889
25	(指揮棒)	写真						ゲッティイメージズ:75651184-170667a
36	永平寺	写真						時事通信フォト:0007503254
38	三浦哲郎	写真						時事通信フォト:915323
38	葛西善蔵	写真						日本近代文学館:P0000888
38	太宰治	写真						日本近代文学館:P0002246
39	『小僧の神様』	写真	『小僧の神様 他十篇』	表紙	志賀直哉	岩波書店	2002年	自社で撮影
39	『あつあつを召し上がれ』	写真	『あつあつを召し上がれ』	表紙	小川糸	新潮社	2014年	自社で撮影
39	『魯肉飯のさえずり』	写真	『魯肉飯のさえずり』	表紙	温又柔	中央公論新社	2023年	自社で撮影
51	宮下奈都	写真						朝日新聞社:P110216009500
51	映画『羊と鋼の森』	写真						TOHOマーケティング
52	『風の又三郎』	写真	『新編 風の又三郎』	表紙	宮沢賢治	新潮社	1989年	自社で撮影
52	『桐島、部活やめるってよ』	写真	『桐島、部活やめるってよ』	表紙	朝井リョウ	集英社	2012年	自社で撮影
52	『一瞬の風になれ』	写真	『一瞬の風になれ』	表紙	佐藤多佳子	講談社	2009年	自社で撮影
53	銀河団SMACS0723	写真						NASA
59	蛭蛸	写真						東城幸治
65	高村光太郎	写真						時事通信フォト:918747
65	室生屋星	写真						日本近代文学館:P0002941
66	吉野弘	写真						吉野弘
66	谷川俊太郎	写真						共同通信社:2022042011016
67	『羅生門』執筆当時の芥川龍之介	写真						日本近代文学館:P0000063b
69	羅城門の復元模型	写真						京都文化博物館
69	市女笠	写真	模本『釈迦堂縁起絵巻』	巻五				東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
69	揉鳥帽子	写真	春日権現験記絵巻(模本)					ColBase
70	鴟尾	写真						ユニフォトプレス:NNP0036A08753
72	築土	写真						歴史公園えさし藤原の郷
72	火桶	写真	模本『春日権現霊験記』	巻十六				東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
74	やもり	写真						アーテファクトリー:T-16861
81	『羅生門』初版本表紙	写真	『羅生門』	表紙	芥川龍之介		1917年	日本近代文学館:P0003501
83	芥川龍之介	写真						日本近代文学館:P000082
88	『戯作三昧』	写真	『戯作三昧・一塊の土』	表紙	芥川龍之介	新潮社	1968年	自社で撮影
88	『奉教人の死』	写真	『奉教人の死』	表紙	芥川龍之介	新潮社	1968年	自社で撮影
88	『三度目の恋』	写真	『三度目の恋』	表紙	川上弘美	中央公論新社	2023年	自社で撮影
89	祇園・円山公園の桜(1910年ごろ)	写真						ユニフォトプレス:25.MM41AT
90	与謝野晶子	写真						アーテファクトリー:P20110905dd1dd1phj628000
90	石川啄木	写真						日本近代文学館:P000313
91	不来方の城跡	写真						フォトオリジナル:2004047
91	若山牧水	写真						日本近代文学館:P0003139

申請図書			出 典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
91	斎藤茂吉	写真						日本近代文学館:P0001534
92	近藤芳美	写真						ユニフォトプレス:KDO2006062100239
92	寺山修司	写真						ユニフォトプレス:KDO2009072700170
93	俵万智	写真						朝日新聞社:P211217000651
93	東直子	写真						東直子
94	(手毬)	写真						素材辞典:00019252
94	高浜虚子	写真						日本近代文学館:P0003442
94	種田山頭火	写真						日本近代文学館:P0002143
95	水原秋桜子	写真						ユニフォトプレス:KDO2008022600069
95	橋本多佳子	写真						共同通信社:2011060900608
95	中村草田男	写真						ユニフォトプレス:KDO2009052500169
96	加藤楸邨	写真						ユニフォトプレス:KDO2009070900109
96	金子兜太	写真						朝日新聞社:P110216009446
97	(鰯雲)	写真						PIXTA:1561661
97	(桜)	写真						PIXTA:75045599
97	神野紗希	写真						共同通信社:2020040301831
99	人力車を引く車夫(1880年ごろ)	写真						アフロ:21619272
104	護国寺の山門	写真						アフロ:21037474
105	仁王像	写真	東大寺南大門金剛力士像					公益財団法人美術院
109	夏目漱石	写真						日本近代文学館:P0002499
109	『吾輩は猫である』挿絵	写真						日本近代文学館:P0008058
110	『冥土』	写真	『冥土・旅順入場式』	表紙	内田百閒	岩波書店	1990年	自社で撮影
110	『笑う月』	写真	『笑う月』	表紙	安部公房	新潮社	1984年	自社で撮影
110	『夢違』	写真	『夢違』	表紙	恩田陸	KADOKAWA	2014年	自社で撮影
123	村上春樹	写真						アフロ:1757515
124	『象の消滅』	写真	『象の消滅』	表紙	村上春樹	新潮社	2005年	自社で撮影
124	『星条旗の聞こえない部屋』	写真	『星条旗の聞こえない部屋』	表紙	リービ英雄	講談社	2004年	自社で撮影
124	『献灯使』	写真	『献灯使』	表紙	多和田葉子	講談社	2017年	自社で撮影
125	延暦寺(根本中堂)	写真						PIXTA:27057614
126	小倉百人一首競技かるた全国大会の様子	写真						朝日新聞社:P161105001175
127	源氏物語(『新源氏物語 上』)	写真	『新源氏物語 上』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『新源氏物語 中』)	写真	『新源氏物語 中』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『新源氏物語 下』)	写真	『新源氏物語 下』	表紙	田辺聖子	新潮社	1984年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 上』)	写真	『源氏物語 上』	表紙	角田光代	河出書房新社	2017年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 中』)	写真	『源氏物語 中』	表紙	角田光代	河出書房新社	2018年	自社で撮影
127	源氏物語(『源氏物語 下』)	写真	『源氏物語 下』	表紙	角田光代	河出書房新社	2020年	自社で撮影
129	僧と児	写真	『石山寺縁起絵巻』		高階隆兼等			自社で撮影
130	『宇治拾遺物語』冒頭	写真	『宇治拾遺物語』					宮内庁書陵部
130	雀、報恩の事	写真	『宇治拾遺物語絵巻』					陽明文庫
130	百鬼夜行	写真	『百鬼夜行絵巻』					国際日本文化研究センター
138	『万葉集』(一六四三年刊)	写真	『万葉集』刊本				1643年	国立公文書館
138	『万葉集』(一六四三年刊)	写真	『万葉集』刊本				1643年	国立公文書館
139	元永本『古今和歌集』	写真	元永本『古今和歌集』					ColBase
139	『新訂童子便』(一八七六年刊)	写真	『新訂童子便』		尾崎富五郎	錦誠堂	1874年	国立国会図書館
140	(割りばしの外袋の写真)	写真						長井紙業㈱
140	「児のそら寝」の冒頭と末尾(冒頭)	写真	『宇治拾遺物語』					国文学研究資料館
140	「児のそら寝」の冒頭と末尾(末尾)	写真	『宇治拾遺物語』					国文学研究資料館
140	(くずし字写真・うなぎ)	写真						Gettyイメージズ:1495098631
140	(くずし字写真・おそば)	写真						アフロ:20822922
140	(くずし字写真・せんべい)	写真						サイネットフォト:BAA110003667
141	(竹)	写真						PIXTA:54985458
142	翁、女兒を家へ連れて帰る	写真	『竹取翁并かぐや姫絵巻物』					宮内庁書陵部
143	翁と姫、女兒を育てる	写真	『竹取物語絵巻』					国立国会図書館
145	『竹取物語絵巻』	写真	『竹取物語』					国立国会図書館
145	『竹取物語』	写真	『竹取物語』		星新一	角川書店	2008年	自社で撮影

申請図書			出 典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
145	『竹取物語』	写真	『竹取物語／伊勢物語／堤中納言物語／土左日記／更級日記』		森見登美彦／川上弘美／中島京子／堀江敏幸／江國香織	河出書房新社	2016年	自社で撮影
145	『対訳竹取物語』	写真	『対訳竹取物語』		川端康成／ドナルド・キーン／宮田雅之	講談社	1997年	自社で撮影
146	月探査機「かべや」と子衛星「おきな」「おうな」	写真						JAXA:P-044-13121
146	奈良絵本『竹取物語』	写真	奈良絵本『竹取物語』					龍谷大学図書館:竹取物語021-578-3
147	版本『籠に成竹取物語』	写真	版本『籠に成竹取物語』					国立国会図書館
149	「不動明王二童子像」	写真	不動明王二童子像					青蓮院門跡
149	「不動明王像(良秀様)」	写真	不動明王像(良秀様)					醍醐寺
153	兼好法師	写真	『徒然草絵巻』					サントリー美術館
153	清少納言	写真	清少納言図		土佐光起			ColBase
156	高名の木登り	写真	『徒然草画帖』		住吉具慶			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
157	高名の木登り	写真	『徒然草画帖』		住吉具慶			東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
157	蹴鞠	写真						アフロ:15504836
158	神無月のころ	写真	奈良絵本『徒然草』					名古屋市蓬左文庫
160	兼好法師	写真	兼好法師像		伝 狩野探幽			神奈川県立金沢文庫
162	(春は、あけぼの)	写真						PIXTA:15504836
162	火桶	写真	模本『春日権現霊験記』	巻十六				東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
163	蜚	写真						フォトオリジナル:3025206
163	雁	写真						アーデファクトリー:02100009p
164	尼そぎ	写真	模本『扇面古写経』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
165	雛遊び	写真	『源氏物語絵色紙帖』	紅葉賀				京都国立博物館 特一11932-7
165	蓮	写真						PIXTA:22971946
165	葵	写真						PIXTA:34279534
166	扇	写真						巖島神社
168	清少納言	写真	清少納言		上村松園			北野美術館
173	八橋かきつばた園(愛知県知立市)	写真						アフロ:10542554
174	奈良絵本『伊勢物語』	写真	奈良絵本『伊勢物語』					国文学研究資料館
175	「業平東下り図」	写真	「業平東下り図」		尾形光琳			五島美術館
176	鳴	写真						素材辞典:Vol96 No.99
176	都鳥	写真						PIXTA:48034163
178	「筒井筒」	写真	「筒井筒」		小林古径			東京藝術大学美術館
179	「伊勢物語図 河内越」	写真	「伊勢物語図 河内越」		尾形光琳			MOA美術館
180	河内の女	写真	模本『伊勢物語絵巻』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
182	重要文化財『伊勢物語絵巻』	写真	『伊勢物語絵巻』					和泉市久保惣記念美術館
182	『燕子花図屏風』	写真	『燕子花図屏風』		尾形光琳			根津美術館
183	「伊勢物語御歌かるた」	写真	『伊勢物語御歌かるた』		尾形光琳			同志社大学
183	「伊勢物語御歌かるた」	写真	『伊勢物語御歌かるた』		尾形光琳			同志社大学
183	「業平東下り蒔絵象嵌櫛」	写真						ColBase
183	「見立伊勢物語」	写真	「見立伊勢物語」		鈴木春信			ColBase
183	嵯峨本『伊勢物語』	写真	嵯峨本『伊勢物語』					国文学研究資料館
184	『伊勢物語』冒頭	写真	『伊勢物語』					国立公文書館
184	奈良絵本『伊勢物語』第一段(上)	写真	奈良絵本『伊勢物語』	第一段				国文学研究資料館
184	仮名草子『仁勢物語』第一段(下)	写真	仮名草子『仁勢物語』	第一段				国文学研究資料館
187	宇治川先陣の碑(京都府宇治市)	写真						PIXTA:96500907
187	琵琶法師	写真	模本『職人尽歌合』					東京国立博物館/DNPアートコミュニケーションズ
189	(馬具をつけた馬)	写真						馬の博物館

申請図書			出 典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
190	宇治川の先陣	写真	奈良絵本『平家物語』	巻九				明星大学
191	(大鎧姿(前面))	写真						全教図
191	(大鎧姿(後面))	写真						全教図
191	(兵庫鎖の太刀)	写真						ColBase
196	俱利伽羅の戦い	写真	奈良絵本『平家物語絵巻』	巻七				明星大学
196	屋島の戦い	写真	奈良絵本『平家物語絵巻』	巻十一				明星大学
196	宇治平等院の戦い	写真	奈良絵本『平家物語』	巻四				明星大学
196	壇の浦の戦い	写真	『源平合戦図屏風』壇浦合戦					ColBase
197	源頼朝	写真	「源頼朝木像」					甲斐 善光寺
197	源義経	写真	「源義経画像」					中尊寺
197	平清盛	写真	「平清盛公坐像」					六波羅蜜寺
198	最期を語る頼政	写真						公益社団法人能楽協会
199	平等院	写真	『都名所図会』					国文学研究資料館
199	扇の芝	写真						共同通信社:2023122208152
200	『平家物語』冒頭	写真	『平家物語』					国文学研究資料館
203	三十六歌仙図	写真	「三十六歌仙図」		鈴木其一			出光美術館
204	桃	写真						PIXTA:21944037
205	浜木綿	写真						PIXTA:49176155
205	橘	写真						PIXTA:98021418
207	白梅	写真						PIXTA:9566528
208	大伴家持	写真	『上畳本三十六歌仙絵』					藤田美術館
208	紀貫之	写真	『上畳本三十六歌仙絵』					五島美術館
208	後鳥羽院	写真	『新三十六歌仙図帖』					ColBase
214	(雨に濡れる山桜)	写真						PIXTA:54985458
216	『伊勢物語絵巻』	写真	『伊勢物語絵巻』		住吉如慶			ColBase
216	俵万智	写真						朝日新聞社:P211217000651
217	平泉(岩手県)	写真						アフロ:20164254
218	平安時代の船旅	写真	『北野天神縁起絵巻』承久本					北野天満宮
220	漣標	写真						PIXTA:33880483
220	平安時代の船	写真	「貨客両用船模型」					広島県立歴史博物館
221	紀貫之の邸宅跡	写真						アフロ:147495597
221	為家筆本『土左日記』(冒頭)	写真	『土左日記』		藤原為家			大阪青山歴史文学博物館
221	『明月記』一一九四年(建久五)十二月六日・七日条	写真	『明月記』		藤原定家			ColBase
223	矢立て	写真						世田谷区立郷土資料館
224	卯の花	写真						PIXTA:2215280
225	金色堂	写真						中尊寺
226	「奥の細道行脚之図」	写真	「奥の細道行脚之図」		森川許六			天理大学附属天理図書館
227	白河の関	写真						PIXTA:25219929
227	立石寺	写真						サイネットフォト:YH110008277
227	栗の花	写真						PIXTA:7420279
227	紅粉の花(紅花)	写真						PIXTA:14492772
227	ねぶ(合歓)	写真						PIXTA:30290391
227	萩	写真						PIXTA:54245324
228	松尾芭蕉	写真	松尾芭蕉		小川破笠			公益財団法人芭蕉翁顕彰会蔵
228	『曽良旅日記』五月十三日条	写真	『曽良旅日記』		河合曽良			天理大学附属天理図書館蔵
239	『戦国策正解』	写真	『戦国策正解』	巻四上	横田惟孝	松山堂	1829年	東京大学東洋文化研究所
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」			少年児童出版社	1980年	自社で撮影
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」			少年児童出版社	1980年	自社で撮影
241	『中国古代寓言』より	写真	『中国古代寓言』第一輯(一)「自相矛盾」			少年児童出版社	1980年	自社で撮影
248	卮	写真						サイネットフォト:ABM111174510
253	牀上唐人水滴	写真	牀上唐人水滴					ColBase
254	(春暁 イメージ画像)	写真	西安・唐大慈恩寺遺址公園					アーテファクトリー:YS001k
255	(山上に昇る月)	写真	重慶市奉節・満月					山口直樹
256	渭水河畔	写真						アーテファクトリー:YS-83340

申請図書			出 典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
257	長安城跡	写真						サイネットフォト:AKG110000040
258	廬山	写真						サイネットフォト:IMC110000006
265	馬踏飛燕	写真						アーテファクトリー:CPC41
268	壁	写真						アフロ:236184882
273	『論語疏』	写真	『論語疏』	巻六				慶應義塾図書館
279	「孔子講学図」	写真						CPC:JB-119
280	孔子	写真	「孔子、顔回、曾参三聖像」					ユニフォトプレス:P02CC00163
280	湯島聖堂大成殿	写真						アフロ:179353582
289	島崎藤村『破戒』初版挿絵	写真	『破戒』		島崎藤村	緑蔭叢書	1906年	日本近代文学館
289	幸田露伴と尾崎紅葉	写真						日本近代文学館:P0000786
291	「兵士と死」	写真	“Soldat und Tod”		Hans Larwin		1917年	ユニフォトプレス:uniH_25.2E1KTKF
293	全共闘運動	写真						共同通信社:2003071600248
293	『文豪ストレイドッグス』(1巻)	写真	『文豪ストレイドッグス』(1)	表紙		KADOKAWA	2013年	KADOKAWA
293	『文豪ストレイドッグス』(10巻)	写真	『文豪ストレイドッグス』(10)	表紙		KADOKAWA	2016年	KADOKAWA
318	東三条殿復元模型	写真						国立歴史民俗博物館:H-420
318	夏の暑い日、釣殿で涼む光源氏と公達	写真						風俗博物館
319	清涼殿復元模型	写真						京都文化財団
319	新年を迎えた光源氏と紫の上	写真						風俗博物館
319	牛車	写真						弘前市立弘前図書館
320	やまぶき	写真						PIXTA:7237089
320	やなぎ	写真						PIXTA:41546483
320	ふじ	写真						PIXTA:30648760
320	さくら	写真						PIXTA:7356228
320	うめ	写真						PIXTA:61466369
320	つばくらめ	写真						PIXTA:45667096
320	うぐいす	写真						PIXTA:58310882
320	せり	写真						PIXTA:50354286
320	なずな	写真						PIXTA:2484232
320	ごぎょう	写真						PIXTA:16660954
320	はこべら	写真						PIXTA:38695518
320	ほとけのざ	写真						PIXTA:35930454
320	すずな	写真						PIXTA:6871225
320	すずしろ	写真						PIXTA:53644098
320	うのはな	写真						PIXTA:2215280
320	すえつむはな	写真						PIXTA:14492772
320	あおい	写真						PIXTA:34279534
320	ほととぎす	写真						PIXTA:58441328
320	ほたる	写真						PIXTA:41452242
320	かきつばた	写真						PIXTA:2501577
320	しょうぶ	写真						PIXTA:50157774
320	はちす	写真						PIXTA:30880459
320	たちばな	写真						PIXTA:98021418
321	さざんか	写真						PIXTA:27430791
321	すいせん	写真						PIXTA:28673727
321	みやこどり	写真						PIXTA:48034163
321	ちどり	写真						PIXTA:60926833
321	おし	写真						PIXTA:38652557
321	まき	写真						PIXTA:405982
321	かつら	写真						PIXTA:18296014
321	はぎ	写真						PIXTA:12384448
321	おばな	写真						PIXTA:59447930
321	くず	写真						PIXTA:43924075
321	なでしこ	写真						PIXTA:16043086
321	おみなえし	写真						PIXTA:42510207
321	ふじばかま	写真						PIXTA:12807279
321	あさがお	写真						PIXTA:54932511
321	かり・かりがね	写真						PIXTA:50393816
321	かり・かりがね(空を飛ぶ様子)	写真						PIXTA:54036763

申請図書			出 典					備考
ページ	名称	種別	名称	ページ	著作者等	発行者	発行年次等	
321	しのぶ・しのぶぐさ	写真						PIXTA:62231677
321	しおん	写真						PIXTA:50737039
321	きく	写真						PIXTA:60269619
321	きりぎりす	写真						PIXTA:39825264
321	まつむし	写真						PIXTA:12097225
321	ひぐらし	写真						PIXTA:23874784
321	あさじ	写真						PIXTA:50687496
321	もみじ	写真						PIXTA:5764219
324	歌合	写真	天徳四年内裏歌合復元図					京都文化博物館
324	管弦の遊び	写真	春秋行楽図		冷泉為恭筆			MOA美術館
324	双六盤(上)	写真						ColBase
324	貝合(下)	写真						ColBase
324	絵合	写真	『源氏物語団扇画帖』					国文学研究資料館
324	蹴鞠	写真	『源氏物語団扇画帖』					ColBase
325	葡萄色の小桂・紅梅襲の匂いの桂	写真						風俗博物館
325	浅縹の小桂・紅の薄様襲の桂	写真						風俗博物館
326	武官の束帯姿	写真						全教図
326	文官の束帯姿	写真						全教図
326	直衣	写真						全教図
326	狩衣	写真						風俗博物館
326	褐衣	写真						風俗博物館
327	女房装束(前)	写真	『有職故実』	第二巻				全教図
327	女房装束(後)	写真	『有職故実』	第二巻				全教図
327	壺装束	写真						風俗博物館
327	桂	写真						全教図
328	出産	写真	『北野天神縁起絵巻』					北野天満宮
328	五十日の祝い	写真	『紫式部日記絵詞』					五島美術館
328	初冠	写真	『聖徳太子絵伝』					ColBase
328	露頭	写真	『源氏物語絵巻』〈宿木二〉					徳川美術館/DNPアートコミュニケーションズ
328	五十の賀	写真	『北野天神縁起絵巻』					北野天満宮
328	野辺送り	写真	『北野天神縁起絵巻』					北野天満宮
330	矛	写真						CPC:JB-251b
330	戟	写真						CPC:JB-232
330	戦国時代の兵士	写真						CPC:JBD-890
330	弩	写真						CPC:JB-237
330	盾	写真						CPC:JB-240
330	剣	写真						Colbase
330	鼎	写真						Colbase
331	皇帝の礼装	写真	「隋の文帝」		伝 閻立本			ユニフォトプレス:00023661
331	宮女の服装	写真	「簪花仕女図」		伝 周昉			CPC:PT-13211
331	文官の服装	写真	唐・章懷太子墓壁画「迎賓図」					時事通信社:047375090
331	壁	写真						アフロ:236184882
331	環	写真						CPC:K1C000977N0000000000PAC
331	玦	写真						ユニフォトプレス:3,5950982
331	琴	写真						サイネットフォト:ABM110486352
331	琵琶	写真						Colbase
331	瑟	写真						アーテファクトリー:CPC KJ-46
331	筑	写真						CPC:JB-1045

(備考) 4 (1) 写真等については、肖像権等の権利処理を必要に応じて行うこと。
(2) 著作物の掲載に当たっては、著作権法第33条に基づき、掲載する旨を著作者に通知するとともに、補償金を著作権者に支払う必要があることに留意すること（別途契約を締結する場合を除く）。

備考4の内容について確認しました。☑

単 元 名	ページ・行	本 文	原 典	訂 正 理 由
随想を読む	p 14・2 p 15・3 p 21・1	そうした人は少なくないどころか、 〈一行空きを削除〉 時節に、	そうした人は、少なくないどころか、 今ごろに、	・わかりやすくするため。以下、読点を削除した箇所については同様。 ・学習上の配慮による。 ・発表時と今とで状況が異なるため。
小説を読む (一)	p 28・8 p 41・上 16 p 41・下 7 p 41・下 7 p 46・上 16 p 47・上 1 p 48・上 4 p 48・下 16	音源 パソコン C D やめてもよかった。 初冬のマラソン大会だった。 先生だったらしい。 ただ、どこかで	〈原文では、会話文のあとは一字下げで始まっているが、一字下げをやめ、普通の形に改めた〉 MD デッキ MD 〈このあと原文削除〉 〈このあと原文削除〉 明泉の先生だったらしい。 ただ、いつか	・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、会話文のあとの始め方については同様。 ・実業之日本社ジュニア文庫『よろこびの歌』所収の本文に従って改めた。 ・同上。 ・同上。 ・教育的配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教育的配慮による。 ・教科書として適切な表現にするため。
詩の楽しみ	p 60・7 p 62・3	つめたい光の粒々だったね。 欲しがったりする	淋しい 光りの粒々だったね。 欲しがったりする	・原典の「註」に従って改めた。 ・現代仮名遣いに統一するため。以下、表記については同様。
小説を読む (二)	p 68・4 p 68・5 p 70・15 p 80・11	〈ルビ〉すざくおおじ 二、三人 待っていた。」 襟髪	すじやくおおぢ 二三人 待つてゐた」 襟上	・現在の一般的な読み方に改めた。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため。以下、原典にない読点については同様。 ・教科書として適切な表記に改めた。 以下、原典にない句点については同様。 ・現在の一般的な表記に改めた。
古文入門	p 128・1 p 128・2 p 135・2 p 135・3	今は昔、 かいもちひ 〈改行〉心には利分とこそ をこがましきわざなり。	是も今は昔、 かひもちい 〈改行なし〉心には利分とこそ 〈このあと原文削除〉	・一編だけの採録であるので、わかりやすくするため。 ・教育的配慮による。以下、仮名遣いについては同様。 ・わかりやすくするため。以下、原典にない改行については同様。 ・説話としての採録であるので、わかりやすくするため。
古文に親しむ	p 142・4 p 143・2 p 148・1 p 149・2	〈改行なし〉その竹の中に、 妻の嫗 絵仏師良秀といふありけり。 あしく描きけるなり。	〈改行〉その竹の中に、 妻の女 絵仏師良秀と云ありける。 あしく描ける也。	・文章の流れを中断しないため。以下、文を続けた箇所については同様。 ・諸本により校訂。 ・教科書として、文法的破格を避けるため。以下、文末については同様。 ・これより前（p 148・9）の表現に準じて訂正した。
随筆を読む	p 156・4 p 163・2 p 163・4 p 164・4 p 164・10 p 164・11	飛び降るとも降りなん。 はた言ふべきにあらず。 言ふべきにもあらず。 大人などに見せたる、 〈ルビ〉ひひな みなうつくし。	飛び降るるとも降りなん。 いとあはれなり。 いふべきにあらず。 大人ごとにみせたる、 〈ルビ〉ひいな 〈このあと原文削除〉	・正徹本により校訂。 ・諸本により校訂。 ・同上。 ・同上。 ・同上。 ・採録スペースの関係による。
歌物語を読む	p 178・9 p 180・2	筒井筒 心にくくも	筒井つの 心にくくも	・諸本により校訂。 ・同上。
軍記物語を読む	p 188・8 p 189・12	川 見えさうぞ。	河 見えさうは、	・章段名の表記に統一した。以下、「川」については同様。 ・諸本により校訂。
和歌の鑑賞	p 204・1 p 214・上 9 p 214・下 9～ 下 10 p 215・上 10 p 216・上 4	眺矚して作る歌 センスに任せるしかない。 『ふる』は『経る』と『降る』、… …『降る』と『長雨』は縁語。 『伊勢物語』を、中学生ぐらいを対象にして現代語訳する また、	眺矚して作る歌二首 〈このあと原文削除〉 『ふる』は「経る」と「降る」、… …「降る」と「長雨」は縁語。 『伊勢物語』を、中学生ぐらいを対象にして現代語訳をする 〈このあと原文削除〉	・一首だけの採録なので削除した。以下、「』『万葉集』の詞書については同様。 ・採録スペースの関係による。 ・原典の不一致を正し、一般的な区切り符号の使い方に従った。 ・「を」が重複するのを避けるために改めた。 ・採録スペースの関係による。

単 元 名	ページ・行	本 文	原 典	訂 正 理 由
故事成語	p 240・6	盾	楯	・「楯」は手すりの意で、誤りであるため。以下、「盾」については同様。 ・通行本によって改めた。 ・抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。
	p 240・7 p 244・9	堅、物莫 恵王曰	堅、莫 曰	
漢詩の鑑賞	p 256・2 p 256・3 p 258・10	浥 新 何	裒 春 可	・通行本によって改めた。 ・通行本によって改めた。 ・通行本によって改めた。
史伝を読む	p 268・3	趙恵文王	恵文	・抜粋であるので、学習者に理解しやすくするため。 ・『史記』によって改めた。
	p 268・5	藺相如曰、	藺相如	
中国の思想	p 281～284 p 281・上 7 p 281・上 11～12	〈小見出しを削除〉 “語録”です。 杖なんかをついた“仙人”のような老人ではないでしょうか？	〈このあと原文削除〉 杖なんかをついた“仙人”のような老人——、ではないでしょうかね？	・学習上の配慮による。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、より適切な表現に改めた。 ・教科書として適切な表現にするため。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・煩雑さを避けるため。 ・採録スペースの関係による。 ・教科書として読みやすく、また、わかりやすくするため読点を追加した。 ・原文と書き下し文とで句読点をそろえたり、かっこを付け替えたりすることで二つを対照しやすくした。また、煩雑さを避けるため、出典の編名の下にある番号を削除した。以下、これらの修正については同様。 ・書き下し文と原文にそろえて句点を追加した。以下、この修正については同様。 ・部分採録のため、後項を受ける表現を削除した。 ・文章の流れを中断しないため。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・教科書としてより適切な表現に改めた。 ・採録スペースの関係による。
	p 282・上 9～10	その夢がかなったのは五十歳を過ぎてからのことです。	その夢がかなったのはようやく五十歳を過ぎてからのことです。	
	p 282・上 11～12	やってやろうじゃないか	やったろうじゃないか	
	p 282・下 2	サエない人生を送ったことになり ます。	〈このあと原文削除〉	
	p 282・下 12 p 282・下 17～18	確かなようです。 自らの経験を、後進を後押しするの に生かしました。	〈このあと原文削除〉 自らの経験を後進を後押しするの に生かしました。	
	p 283・上 6～10	「吾の人に於けるや、……所以 なり。（吾之於人也、誰毀誰誉。 ……其有所試矣。……直道而行 也。）」（衛霊公）	「吾れの人に於けるや、……所 以なり」（吾之於人也、誰毀誰 譽、……其有所試矣、……直道 而行也、衛霊公第十五―二十五）	
	p 283・上 14	伸びていくもんだよ。）	伸びていくもんだよ）	
	p 283・下 9	『論語』というのは、どちらか というと	『論語』というのは、のちの回 でも話しますが、どちらかとい うと	
	p 284・上 3～4	気になるでしょう。〈改行なし〉 でも、	気になるでしょう。〈改行〉で も、	
	p 284・下 1～3	いつか「わかった！」となると きがくる。……「あ、やっぱり 違うかな」と思い始める。	いつか「分かった！」って時が くる。……「あ、やっぱり違 うかな」って思いはじめる。	
	p 284・下 8	逆に自分自身の成長がわかるの です。	逆に自分自身の成長が分かった りするのです。	
	p 284・下 9～10	大きな魅力の一つなんです。	〈このあと原文削除〉	

ウェブサイトのアドレスの掲載箇所一覧表

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
1	2	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	2	URL		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
	表4	二次元コード		自社ページURL	コンテンツリスト	別紙1添付
2	14	二次元コード		自社ページURL	本と出会う 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙2添付
				自社ページURL	本と出会う 語彙力ドリル 語句の意味	別紙3添付
3	19	二次元コード		自社ページURL	わたしの好きな季語 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙4添付
				自社ページURL	わたしの好きな季語 語彙力ドリル 語句の意味	別紙5添付
4	26	二次元コード		自社ページURL	とんかつ 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙6添付
				自社ページURL	とんかつ 語彙力ドリル 語句の意味	別紙7添付
5	38	二次元コード	青森県立図書館・青森県近代文学館	https://www.plib.pref.aomori.lg.jp/bungakukan/	参考リンク 青森県近代文学館	
6	40	二次元コード		自社ページURL	よろこびの歌 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙8添付
				自社ページURL	よろこびの歌 語彙力ドリル 語句の意味	別紙9添付
7	53	二次元コード		自社ページURL	詩教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙10添付
				自社ページURL	詩教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙11添付
8	65	二次元コード	室生犀星記念館	https://www.kanazawa-museum.jp/saisei/	参考リンク 室生犀星記念館	
9	68	二次元コード		自社ページURL	羅生門 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙12添付
				自社ページURL	羅生門 語彙力ドリル 語句の意味	別紙13添付
10	87	二次元コード		自社ページURL	『今昔物語集』「太刀帯の陣に魚を売る媼の話」口語訳	別紙14添付
11	90	二次元コード		自社ページURL	短歌教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙15添付
				自社ページURL	短歌教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙16添付
12	94	二次元コード		自社ページURL	俳句教材 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙17添付
				自社ページURL	俳句教材 語彙力ドリル 語句の意味	別紙18添付
13	100	二次元コード		自社ページURL	夢十夜 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙19添付
				自社ページURL	夢十夜 語彙力ドリル 語句の意味	別紙20添付
14	109	二次元コード	漱石山房記念館	https://soseki-museum.jp/	参考リンク 新宿区立漱石山房記念館	
15	111	二次元コード		自社ページURL	鏡 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙21添付
				自社ページURL	鏡 語彙力ドリル 語句の意味	別紙22添付

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
16	128	二次元コード		自社ページURL	児のそら寝（宇治拾遺物語） 重要古語の確認	別紙23添付
17	134	二次元コード		自社ページURL	三文にて齒二つ（沙石集） 重要古語の確認	別紙24添付
18	140	二次元コード		自社ページURL	くずし字字体表	別紙25添付
			Apache License 2.0	https://apache.org/licenses/LICENSE-2.0	参考リンク 1 NINJAL変体仮名フォント ライセンス表記	
			人文学オープンデータ共同 利用センター	http://codh.rois.ac.jp/miwo/	参考リンク 2 みを(miwo) AIくずし字認識アプリ	
			人文学オープンデータ共同 利用センター	https://lab.nijl.ac.jp/kuzusu/	参考リンク 3 くずし字、いろいろ。	
19	142	二次元コード		自社ページURL	なよ竹のかぐや姫（竹取物語） 重要古語の確認	別紙26添付
20	148	二次元コード		自社ページURL	絵仏師良秀（宇治拾遺物語） 重要古語の確認	別紙27添付
21	154	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』つれづれなるままに 重要古語の確認	別紙28添付
				自社ページURL	『徒然草』仁和寺にある法師 重要古語の確認	別紙29添付
22	156	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』高名の木登り 重要古語の確認	別紙30添付
23	158	二次元コード		自社ページURL	『徒然草』神無月のころ 重要古語の確認	別紙31添付
24	162	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』春は、あけぼの 重要古語の確認	別紙32添付
25	164	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』うつくしきもの 重要古語の確認	別紙33添付
26	166	二次元コード		自社ページURL	『枕草子』中納言参りたまひて 重要古語の確認	別紙34添付
27	174	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』東下り 重要古語の確認	別紙35添付
28	177	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』第三段	別紙36添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第四段	別紙37添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第五段	別紙38添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第六段	別紙39添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第七段	別紙40添付
				自社ページURL	『伊勢物語』第八段	別紙41添付
29	178	二次元コード		自社ページURL	『伊勢物語』筒井筒 重要古語の確認	別紙42添付
30	187	二次元コード		自社ページURL	動画（平曲演奏「祇園精舎」）	別紙43添付
31	188	二次元コード		自社ページURL	『平家物語』宇治川の先陣 重要古語の確認	別紙44添付
				自社ページURL	動画（平曲演奏「祇園精舎」）	別紙45添付
32	204	二次元コード		自社ページURL	「万葉・古今・新古今」 重要古語の確認	別紙46添付
33	212	二次元コード		自社ページURL	短歌を訳す 語彙力ドリル 語句の言い換え	別紙47添付
				自社ページURL	短歌を訳す 語彙力ドリル 語句の意味	別紙48添付

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
34	218	二次元コード		自社ページURL	『土佐日記』門出 重要古語の確認	別紙49添付
35	222	二次元コード		自社ページURL	『奥の細道』旅立ち 重要古語の確認	別紙50添付
36	224	二次元コード		自社ページURL	『奥の細道』平泉 重要古語の確認	別紙51添付
37	225	二次元コード	平泉町世界遺産推進室	https://www.town.hiraizumi.iwate.jp/heritage/index.html	参考リンク：藤原秀衡・源義経	
38	232	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（一） 読み順確認問題	別紙52添付
				自社ページURL	漢文を読むために1 読み順確認問題	別紙53添付
39	234	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（二） 読み順確認問題	別紙54添付
				自社ページURL	漢文を読むために2 読み順確認問題	別紙55添付
40	236	二次元コード		自社ページURL	訓読に親しむ（三） 読み順確認問題	別紙56添付
				自社ページURL	漢文を読むために3 読み順確認問題	別紙57添付
41	240	二次元コード		自社ページURL	「矛盾」 基本句形の確認	別紙58添付
42	244	二次元コード		自社ページURL	「五十歩百歩」 基本句形の確認	別紙59添付
43	248	二次元コード		自社ページURL	「蛇足」 基本句形の確認	別紙60添付
44	252	二次元コード	青空文庫	https://www.aozora.gr.jp/	参考リンク1 青空文庫	
			少納言	https://shonagon.ninjal.ac.jp/	参考リンク2 少納言	
			NINJAL-LWP	https://tsukubawebcorpus.jp/	参考リンク3 NINJAL-LWP for TWC	
45	254	二次元コード		自社ページURL	「唐詩の世界」 基本句形の確認	別紙61添付
				自社ページURL	「唐詩の世界」 押韻確認問題	別紙62添付
46	260	二次元コード		自社ページURL	「日本の漢詩」 基本句形の確認	別紙63添付
				自社ページURL	「日本の漢詩」 押韻確認問題	別紙64添付
			太宰府天満宮	https://www.dazaifutenmangu.or.jp/about/sugawarano-michizanekou	参考リンク 菅原道真と太宰府	
			廣瀬資料館	http://hirose-museum.jp/	参考リンク 広瀬淡窓	
			宇和島市	https://www.city.uwajima.ehime.jp/site/sizen-bunka/108nakano.html	参考リンク 中野逍遙	
47	266	二次元コード		自社ページURL	「鶏口牛後」 基本句形の確認	別紙65添付
48	267	二次元コード		自社ページURL	参考資料 合従連衡 解説・模式図	別紙66添付
49	268	二次元コード		自社ページURL	「完璧」 基本句形の確認	別紙67添付
50	269	二次元コード		自社ページURL	『史記』「廉頗藺相如列伝 渾池の会」 書き下し文・口語訳	別紙68添付
51	270	二次元コード		自社ページURL	「先從隗始」 基本句形の確認	別紙69添付
52	274	二次元コード		自社ページURL	『論語』〈学び〉 基本句形の確認	別紙70添付

申 請 図 書			学習上の参考に供する情報			備 考
番号	ページ	種別	参照先	URL	概要	
				自社ページURL	『論語』〈仁〉 基本句形の確認	別紙71添付
				自社ページURL	『論語』〈政治〉 基本句形の確認	別紙72添付
53	284	二次元コード		自社ページURL	孔子年譜	別紙73添付
				自社ページURL	孔子のエピソード 書き下し文・口語訳	別紙74添付
54	287	二次元コード		自社ページURL	常用漢字表	別紙75添付
55	320(3)	二次元コード	サントリーホールディングス	https://www.suntory.co.jp/eco/birds/encyclopedia/	参考リンク 日本の鳥百科	
				自社ページURL	動画（虫の鳴き声）	別紙76添付
56	324(7)	二次元コード		自社ページURL	動画（雅楽に使用する楽器）	別紙77添付
57	326(9)	二次元コード	風俗博物館	https://costume.iz2.or.jp/	参考リンク 日本服飾史	
58	334(17)	二次元コード	京都市平安京創生館	https://www.arc.ritsumeimei.ac.jp/archive01/theater/html/heian/	参考リンク 平安京オーバーレイマップ	

社名入る 教科書ウェブ

106-253 (書名入る)

106-253 (書名入る)

著作権について

現代文編

古文編

漢文編

資料編

巻末図録・地図

別紙 2

1問 / 6問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
白色動物の誕生はまれだ。

解答

☐ たわいない

☐ 所在ない

☒ めったにない

別紙 3

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。
態度
〈例文〉 彼はその問題に対して反対の態度を示した。

解答を見る

別紙 4

1問 / 6問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
ひょんなことから事実を知った。

解答

☐ 仕方ない

☐ 心ない

☒ 思いがけない

別紙 5

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。
評論
〈例文〉 新聞に新刊の評論が掲載されていた。

解答を見る

別紙 6

1問 / 5問

解答

☐ 予想外の
☐ 不名誉な
☒ 非情な

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
案に相違した結果だ。

別紙 7

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
景勝地
〈例文〉 日本中に知られた景勝地だ。

別紙 8

1問 / 5問

解答

☐ やはり
☐ 自然に
☒ 不思議と

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
おのずと頭が下がる。

別紙 9

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
迂闊^{うちがた}
〈例文〉 迂闊^{うちがた}にも名前を書くのを忘れていた。

別紙 10

1問 / 5問

解答

- ☐ 気迫
☐ 気質
☒ 気性

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 気魄^{きはく}がこもった作品だ。

別紙 11

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 道程
 〈例文〉 長い道程を経て、目的地に到着した。

別紙 12

1問 / 5問

解答

- ☐ 低回する
☐ 衰微する
☒ 興隆する

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 若者のいない街はさびれる。

別紙 13

1問 / 6問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 洗いざらし
 〈例文〉 洗いざらしのシャツで、僕は旅立った。

大刀帯の陣に魚を売る鳶の語

【原文】

今は昔、¹三条の院の天皇の春宮にておはしましける時に、²大刀帯の陣に常に来て、魚売る女ありけり。大刀帯ともこれを買はせて食ふに、味はひのうまかりければ、これを³役ともてなして、⁴菜料に好みけり。干したる魚の切れ切れなるにてなむありける。

しかる間、八月ばかりに、大刀帯とも⁴小鷹狩りに⁵北野に出でて遊びけるに、この魚売りの女出で来たり。大刀帯ども、女の顔を見知りたれば、「こやつは野には何わざするにかあらむ。」と思ひて、馳せ⁶寄りて見れば、女、大きやかなる⁶籬を持ちたり。また、⁷楚一筋を捧げて持ちたり。この女、大刀帯どもを見て、あやしく⁸逃げ目を使ひて、ただ騒ぎに騒ぐ。大刀帯の従者ども寄りて、「女の持ちたる籬には何の入りたるぞ。」と見むとするに、女惜しんで見せぬを、あやしがりて引き奪ひて見れば、蛇を四⁹寸ばかりに切りつつ入れたり。あさましく思ひて、「こは何の料ぞ。」と問へども、女、さらに答ふことなくて、¹⁰「て立てり。早う、こやつをしけるやうは、楚をもて藪をおどろかしつつ、這ひ出づる蛇を打ち殺して切りつつ、家に持て行きて、塩を付けて干して売りけるなりけり。大刀帯ども、それを知らずして、買はせて役と食ひけるなりけり。」

これと思ふに、「蛇は¹¹食ひつる人あし。」と言ふに、など蛇の毒せぬ。しかれば、その体たしかになくて切れ切れならむ魚売らむをば、¹²広量に買ひて食はむことはとどむべしとなむ、これを聞く人言ひあつかひけるとなむ、語り伝へたとや。

¹ 三条の院の天皇 三条天皇（九七六—一〇一七、在位一〇一一—一〇一六）。「春宮」は皇太子のこと。三条天皇が皇太子であった時期は、九八六—一〇一一年の間。

² 大刀帯の陣 皇太子の警護にあたる武官たちの詰所。

³ 役ともてなして もっぱら重宝して。

⁴ 小鷹狩り 秋に小型の鷹を用いて小鳥を捕まえる狩り。

⁵ 北野 現在の京都市上京区北野。平安京大内裏の北に広がる野で、遊獵の地として知られる。

⁶ 籬 底が方形、上部が円形のざる。

⁷ 楚 細い木の枝。鞭とする説もある。

⁸ 逃げ目を使ひて 逃げる機会をうかがう目つきをして。



9 寸 長さの単位。一寸は約三センチメートル。

10 「――」 諸本この部分を欠いて伝わらない。「あきれ」などが入るだろうと考えられている。

11 食ひつる人あし 食べた人の体に悪い。

12 広量に 不注意に。

【口語訳】

今となつては昔の話、三条天皇が皇太子でいらっしゃったときに、大刀帯の詰め所にいつも来て、魚を売る女がいた。大刀帯たちがこれを（従者に）買わせて食べてみると、味がよかったので、これをもつぱら重宝して、おかずとして好んでいた。（それは）干した魚のぶつぶつに切られたものであった。

そのうち、八月ごろに、大刀帯たちが小鷹狩りに北野へ出かけて遊んでいたところ、この魚売りの女が現れた。大刀帯たちは、女の顔を見知っていたので、「こいつは野で何をしているのだろうか。」と思って、駆け寄って見ると、女は、大きなざるを持っていた。また、小枝を一本掲げ持っていた。この女は、大刀帯たちを見て、奇妙にも逃げる機会をうかがう目つきをして、ひどく慌てる。大刀帯の従者たちが寄って行って、「女が持っているざるには何が入っているのか。」と見ようとすると、女はいやがって見せないのを、怪しいと思って引っぱって奪って見ると、蛇を四寸ほどに切って入れて入った。驚いて、「これは何に使うのか。」と問いたすけれども、女は、一向に答えることなく、【呆然 ぼうぜん】「立っていた。なんと実は、こいつのしていたことは、小枝で藪を（つついて）驚かしては、這い出る蛇を打ち殺して切つては、家に持ち帰って、塩をつけて干して売っていたのであった。大刀帯たちは、それを知らずに、買わせてもつぱら食べていたのであった。

これを見ると、「蛇は（それを）食べた人の体に悪い。」と言うが、どうして蛇の毒にあたらなかったのだろうか。こんなこともあるから、全体の姿がはっきりしなくて切り身になっているような魚を売っているのを、不注意に買って食べるようなことはやめたほうがよいと、この話を聞く人々は言い合つたと、語り伝えたとかいうことである。

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。
よぎる

〈例文〉 脳裏にふと不安がよぎった。

解答を見る

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
万策が尽きはて。

☒ なくなる

☐ 講じる

☐ こねあげる

解答

1問 / 7問

次の表現の意味を答えよう。
しくれる

〈例文〉 外出するとしくれていた。

解答を見る

1問 / 3問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
道が湾曲している。

☒ 伸び

☐ 曲がっ

☐ 二分し

解答

1問 / 5問

解答

- ☐ 邪魔
☐ 滑稽
☒ 懸念

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 大きなビルが建って目障りだ。

1問 / 8問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 輪郭
 〈例文〉 顔の輪郭は祖父に似ている。

1問 / 5問

解答

- ☐ 未来
☐ 架空
☒ 現実

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
 三次元の世界に生きる。

1問 / 7問

解答を見る

次の表現の意味を答えよう。
 クロスする
 〈例文〉 運命のいたずらで二人の人生がクロスした。

1問 / 3問

次の古語の意味を答えよう。
おどろく

解答を見る

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。
定む

解答を見る

■ 踊り字（くり返し符号）

例 … し み ぐ (し み じ み)	例 … い ろ く (い ろ い ろ)
---	---

別紙 26

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。
うつくし

解答を見る

別紙 27

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。
さながら

解答を見る

別紙 28

1問 / 4問

次の古語の意味を答えよう。
つれづれなり

解答を見る

別紙 29

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。
心憂し

解答を見る

1問 / 4問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。
掟つ

1問 / 6問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。
心細し

1問 / 7問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。
なごなり

1問 / 5問

解答を見る

次の古語の意味を答えよう。
うつくし

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。
いみじ

解答を見る

1問 / 7問

次の古語の意味を答えよう。
おもしろし

解答を見る

伊勢物語・第四段

月やあらぬ

昔、東の五条に、大后の宮おはしましける、西の対に住む人ありけり。それを、本意にはあらで、心ざし深かりける人、行きとぶらひけるを、睦月の十日ばかりのほどに、ほかに隠れにけり。あり所は聞けど、人の行き通ふべき所にもあらざりければ、なほ憂しと思ひつくなむありける。またの年の睦月に、梅の花盛りに、去年を恋ひて行きて、立ちて見、あて見、見れど、去年に似るべくもあらず。うち泣きて、あばらなる板敷きに、月の傾くまで臥せりて、去年を思ひ出でてよめる。

月やあらぬ春や昔の春ならぬわが身ひとつはもとの身にして
とよみて、夜のほのぼのと明くるに、泣く泣く帰りにけり。



伊勢物語・第三段

ひじき藻

昔、男ありけり。懸想じける女のもとに、ひじき藻といふものをやるとて、

思ひあらば律の宿に寝もしなむひじきものには袖をしつつも

二条の後の、まだ帝にもつかうまつりたまはで、ただ人にておはしましけるときのことなり。



伊勢物語・第五段

通ひ路の関守せきもり

昔、男ありけり。ひけがし東の五条わたりに、いと忍びて行きけり。みそかなる所なれば、門かどより
もえ入いらで、童わらはべの踏みあけたる築地ついでちのくづれより通ひけり。人しげくもあらねど、たび重
なりければ、あるじ聞きつけて、その通ひ路に、夜ごとに人を据ゑて守らせければ、行けど
もえあはで帰りけり。さてよめる。

人知れぬわが通ひ路の関守は宵々ごとにうちも寝ななむ

とよめりければ、いといたう心やみけり。あるじ許してけり。

二条の後に忍びて参りけるを、世の聞こえありければ、せうとたちの守らせ給ひけると
ぞ。



伊勢物語・第六段

芥川
あくたがは

昔、男ありけり。女のえ得まじかりけるを、年を経てよばひわたりけるを、からうじて盗み出でて、いと暗きに来けり。芥川といふ河を率て行きければ、草の上に置きたりける露を、「かれは何ぞ。」となむ男に問ひける。行く先多く、夜も更けにければ、鬼ある所とも知らで、神さへいといみじう鳴り、雨もいたう降りければ、あばらなる蔵に、女をば奥に押し入れて、男、弓・胡籙やなくひを負ひて戸口にをり。はや夜も明けなむと思ひつつゐたりけるに、鬼、はや一口に食ひてけり。「あなや。」と言ひけれど、神鳴るさわぎに、え聞かざりけり。やうやう夜も明けゆくに、見れば、率て来し女もなし。足ずりをして泣けども、かひなし。

白玉か何ぞと人の問ひしとき露と答へて消えなましものを

これは、二条の後の、いとこの女御にようこの御もとに、つかうまつるやうにてゐたまへりけるを、かたちのいともでたくおはしければ、盗みて負ひて出でたりけるを、御せうと、堀河ほりかはの大臣おとど、太郎国経くにつねの大納言、まだ下臈げらふにて、内裏うちへ参りたまふに、いみじう泣く人あるを聞きつけて、とどめて取り返したまうてけり。それを、かく鬼とはいふなりけり。まだいと若うて、後のただにおはしけるときとや。



伊勢物語・第八段

浅間あさまの嶽たけ

昔、男ありけり。京や住み憂うれかりけむ、東あづまの方に行きて、住み所求むとて、友とする人、ひとりふたりして行きけり。信濃しなのの国浅間の嶽たけに煙けぶりの立つを見て、
信濃なる浅間の嶽たけに立つ煙をちこち人の見やはとがめぬ



伊勢物語・第七段

かへる浪なみ

昔、男ありけり。京にありわびて、東あづまに行きけるに、伊勢・尾張おわりのあはひの海づらを行く
に、浪のいと白く立つを見て、
いとどしく過ぎゆく方の恋しきにうらやましくもかへる浪かな
となむよめりける。



別紙 42

1問 / 14問

妹 次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 43

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

平曲演奏「祇園精舎」

参考動画：平曲演奏「祇園精舎」



平曲弾き語り奏者 荒尾努

別紙 44

1問 / 3問

たばかり 次の古語の意味を答えよう。

解答を見る

別紙 45

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

平曲演奏「祇園精舎」

参考動画：平曲演奏「祇園精舎」



平曲弾き語り奏者 荒尾努

別紙 46

1問 / 2問

次の古語の意味を答えよう。
にほふ

解答を見る

別紙 47

1問 / 5問

傍線部の語句の言い換えとして最適なものを選ぶ。
① 静かに口ずなむ。

解答

☐ なみよへ
☐ ひやひやへ
☒ 軽く歌う

別紙 48

1問 / 6問

次の表現の意味を答えよう。
① 翻訳
〈例文〉
なまゆのまな言語で翻訳できるアプリが登場した。

解答を見る

別紙 49

1問 / 5問

次の古語の意味を答えよう。
よし

解答を見る

1問 / 3問

次の古語の意味を答えよう。
やや

解答を見る

1問 / 1問

次の古語の意味を答えよう。
かたみ

解答を見る

1問 / 5問

良薬ハ
苦シ
口ニ

リセット 解答

1問 / 8問

登ル
山ニ

リセット 解答

別紙 54

1問 / 4問

解答

先^{ンズ}
即^{すなはチ}
制^シ
人^ヲ
後^{ルレバ}
則^{すなはチ}
為^{ナル}
人^ノ
所^ト
制^{スル}

リセット

別紙 55

1問 / 13問

解答

聞^ク
弦^ニ
歌^ノ
之^ノ
声^ヲ

リセット

別紙 56

1問 / 4問

解答

及^{ビテ}
時^ニ
当^{まさニ}
勉^ニ
励^ス

リセット

別紙 57

1問 / 9問

リセット

解答

未^{いまダ}
嘗^{かつテ}
敗^ニ
北^セ

1問 / 7問

次の句形の読みと意味を答えよう。

〈例文〉

吾^{わが}盾^{タテ}之^の堅^{キコト}物^{トシテ}莫^キ能^{よく}陷^{とほス}也^{なり}

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

直^タ耳^{ミミ}

〈例文〉

直^タ不^ル百^{ヒャク}步^{ナラ}耳^{なり}

解答を見る

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

未^タ成^ニ

〈例文〉

未^タ成^ニ一^{ヒト}人^ノ之^の蛇^{ヘビ}成^ル

解答を見る

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何^{ナニ}独^{ドク}

〈例文〉

故^コ郷^ノ何^{ナニ}獨^{ドク}在^ニ長^{チヤウ}安^{アン}

心^{シン}泰^{ヤス}身^ミ寧^{ヤス}是^{コレ}歸^{スル}処^{トコロ}

解答を見る

別紙 62-1

1問 / 1問		
解答	夜	春
	来	眠
	風	不 ^ズ
	雨 ^ノ	覚 ^エ
	声	曉 ^ヲ
リセット	花	処
	落 ^{コト}	処 ^{ツル}
	知 ^{ランヤ}	聞 ^ク
	多 ^ニ	啼 ^{てい}
	少 ^ヲ	鳥 ^{てうヲ}

別紙 62-2

1問 / 1問		
解答	拳 ^{ゲテ}	牀 ^{しやう}
	頭 ^{かうベヲ}	前
	望 ^ミ	看 ^{みる}
	山	月
	月 ^ヲ	光 ^ヲ
リセット	低 ^{たレテ}	疑 ^{クハ}
	頭 ^ヲ	是 ^{コレ}
	思 ^フ	地
	故	上 ^ノ
	郷 ^ヲ	霜 ^{カト}

別紙 62-3

1問 / 1問		
解答	勸 ^ム	渭 ^み
	君 ^ニ	城 ^{じやうノ}
	更 ^ニ	朝
	尽 ^{クセ}	雨
	一	浥 ^{うるほ}
リセット	杯 ^ノ	輕 ^{けい}
	酒	塵 ^{じんヲ}
	西 ^{ノカタ}	客
	出 ^{ブレバ}	舍
	陽	青
リセット	関 ^ヲ	青
	無 ^{カラシ}	柳
	故	色
	人	新 ^{タナリ}

1問 / 1問

解答

白 烽^{ほう} 感^{ジテハ} 国
 頭 火^{くわ} 時^ニ 破^{レテ}
 搔^{かケバ} 連^{ナリ} 花^{ニモ} 山
 更^ニ 三 濺^{そそギ} 河
 短^ク 月^ニ 涙^ヲ 在^リ

リセット

渾^{すベテ} 家 恨^{ミテハ} 城
 欲^ス 書 別^{レヲ} 春^{ニシテ}
 不^{ガラ} 抵^{あた} 鳥^{ニモ} 草
 勝^{たへ} 万 驚^{カス} 木
 簪^{しんニ} 金^ニ 心^ヲ 深^シ

1問 / 1問

解答

心 匡^{きやう} 遺 日
 泰^{やすク} 廬^{ろハ} 愛 高^ク
 身 便^{すなはチ} 寺^ノ 睡^{ねむリ}
 寧^{やすキハ} 是^{コレ} 鐘^ハ 足^{レドモ}
 是^レ 逃^{ルルノ} 欹^{そぼだ} 猶^{なホ}
 歸^{スル} 名^ヲ 枕^ヲ 慵^{ものうシ}
 処^{ところ} 地 聴^キ 起^{クルニ}

リセット

故 司 香 小
 郷^ハ 馬^ハ 炉 閣^ニ
 何^ソ 仍^{なホ} 峰^ノ 重^{ネテ}
 独^リ 為^{タリ} 雪^ハ 衾^{ふすまヲ}
 在^{ランヤ} 送^{ルノ} 撥^{かか} 不^ズ
 長 老^{イヲ} 簾^{すだれヲ} 怕^{おそレ}
 安^{ニノミ} 官 看^{ミル} 寒^{サヲ}

1問 / 2問

解答を見る

北 西
地、 門、
園ハ 樹ハ
教ム 被レ
客 ヲシテ 人ニ
寄 移
居セ 去セ

〈例文〉
被ル
Aニ
B(セ)

次の句形の読みと意味を答えよう。

1問 / 1問

解答

不_レ 紙ハ 西 消
言ハ 裏_ニ 門、 息
妻 生_{セイ} 樹ハ 寂_{セキ}
子 薑_{キヤウヲ} 被_レ 寥_{レウタリ}
飢 称_シ 人ニ 三
寒、 葉 移 月
苦_{シメツ} 種ト 去セ 余

リセット

為_{ためニ} 竹ハ 北 便
是_{コレガ} 籠_{ニメテ} 地、 風
還_{カヘツテ} 昆 園ハ 吹_{フイ}
愁_{ヘテ} 布_ヲ 教_{シム} 著_{チャクス}
懊_{アウ} 記_ス 客 ヲシテ 一
惱_{セシム} 齋_{サイ} 寄 封、
余_{われヲ} 儲_{ちよト} 居セ 書

1問 / 1問

解答

柴_{サイ} 休_{ヤメヨ}
扉_ヒ 道_{イフヲ}
曉_ニ 他
出_{イツレバ} 郷
霜 多_{シト}
如_{ごとシ} 苦
雪、 辛

リセット

君ハ 同_{どう}
汲_{くメ} 袍_{ほう}
川 有_リ
流_ヲ 友
我ハ 自_{おの}
拾_{ハン} 相_{ツカラ}
薪_ヲ 親_{シム}

1問 / 1問

解答

仙 擲^{なげうち}
 二 我^ガ
 階 百
 人 年^ノ
 不^ズ 命^ヲ
 見^エ 一

リセット

唯^{ただ} 換^{ヘン}
 二 君^ガ
 聴^ク 一
 玉 片^ノ
 琴^ノ 情^ニ
 一 声^ヲ 一

1問 / 2問

解答を見る

次の句形の読みと意味を答えよう。

莫^シ 若^{クハ}
 一 一

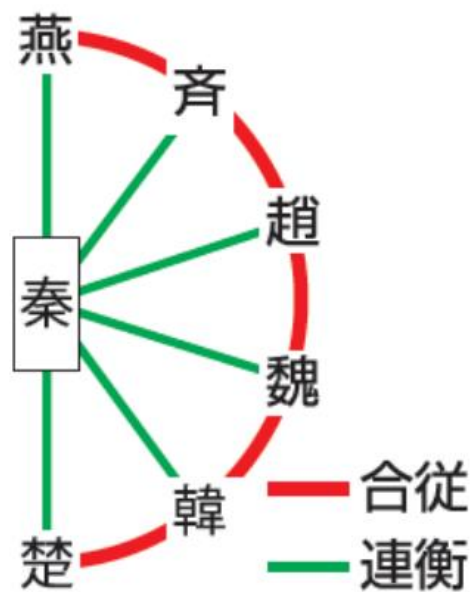
〈例文〉

為^{ためニ} 大 王^ノ
 二 計^{ルニ} 莫^シ
 一 若^{クハ} 六 国^{コク}
 二 従^{しょう} 親^{しんシテ} 以^{もツテ}
 一 擯^{クルニ} 秦^{しんヲ}

合従連衡

戦国時代は、秦・燕・斉・楚・趙・魏・韓（戦国の七雄）などが抗争を繰り返した時代であるが、西方の秦にいかに対処するかが他の六国の動きを左右した。蘇秦は、秦を除く六国が南北に同盟して秦に対抗する「合従」（「従」は「縦」と同義）を、張儀は、六国それぞれが秦と東西に同盟する「連衡」（「衡」は「横」と同義）を掲げ、諸侯に説いた。蘇秦の合従は前三三三年に成立したが、その後瓦解し、張儀の連衡は前三一一年に成立したが、これもやがて解消した。六国の提携離反は、その後さまであったが、前三一一年に秦の始皇帝によって併合統一された。ここに戦国時代は終わる。

〈模式図〉



1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

見
レ
)

〈例文〉

欲_{スレバ}不_レ与_ヘ、畏_レ秦_シ、強_キ欲_{スレバ}与_ヘ、恐_ル見_ル、欺_カ

解答を見る



澠池の会

【書き下し文】

秦王使者をして趙王に告げしむ、「王と好を為し、西河の外¹の澠池に会せんと欲す。」と。趙王 秦を畏れ、行くこと母からんと欲す。² 廉頗・藺相如計りて曰はく、「王行かずんば、趙弱くして且つ怯なるを示すなり。」と。趙王遂³に行く。相如従ふ。廉頗送りて境に至り、王と訣れて曰はく、「王の行、道里を度るに、会遇の礼畢はりて還るまで、三十日を過ぎざらん。三十日にして還らずんば、則ち請ふ太子を立てて王と為し、以つて秦の望みを絶たん。」と。王之を許し、遂に秦王と澠池に会す。

秦王 酒を飲み酣にして曰はく、「寡人窃かに聞く趙王 音を好むと。請ふ瑟を奏でんことを。」と。趙王 瑟を鼓す。秦の御史前み、書きて曰はく、「某年月日、秦王 趙王と会飲し、趙王をして瑟を鼓せしむ。」と。藺相如前みて曰はく、「趙王窃かに聞く秦王 善く秦声を為すと。請ふ盆罎を秦王に奉じ、以つて相娛樂せん。」と。秦王怒りて許さず。是に於いて相如前みて罎を進め、因りて跪きて秦王に請ふ。秦王 罎を撃つことを肯ぜず。相如曰はく、「五歩の内、相如請ふ頸血を以つて大王に灑ぐことを得ん。」と。左右 相如を刃らんと欲す。相如 目を張りて之を叱る。左右皆靡く。是に於いて秦王懼ばざるも、為に一たび罎を撃つ。相如顧みて趙の御史を召し、書かして曰はく、「某年月日、秦王 趙王の為に罎を撃つ。」と。秦の群臣曰はく、「請ふ趙の十五城を以つて秦王の寿を為さんことを。」と。藺相如も亦曰はく、「請ふ秦の³咸陽を以つて趙王の寿を為さんことを。」と。秦王 酒を竟ふるまで、終に勝ちを趙に加ふること能はず。趙も亦盛んに兵を設けて以つて秦を待つ。秦敢へて動かず。

(『史記』廉頗藺相如列伝)

【口語訳】

秦王は使者を遣わし、趙王に、「王と親交を結び、西河(黄河以西の地)の外側にある澠池で会合したい。」と告げさせた。趙王は秦を恐れて行かないでおこうとした。廉頗と藺相如は相談して、「王がお出かけにならなければ、趙が弱く、かつ臆病であることを示すことになります。」と言った。そこで趙王は出かけた。相如がお供をした。廉頗は国境まで送ると、王に別れを告げて言った、「このたびの王のお出ましについて、道程を計算してみますと、会見の儀礼が終わってご帰還なされるまで、三十日をこえることはないでしょう。三十日たってもご帰還なさらなければ、どうか太子を即位させて王にし、秦の野望を絶たせてください。」王はこれを許可し、そして秦王と澠池で会合した。

秦王は酒を飲み、酒宴がたけなわになるとこう言った、「私は、趙王が音楽が大好きだと聞いております。どうか瑟を演奏していただきたい。」趙王は瑟を弾いた。秦の御史（記録係）が進み出て、次のように書き記した、「某年某月某日、秦王は趙王と会合して酒宴を開き、趙王に瑟を弾かせた。」すると藺相如が進み出て言った、「趙王は、秦王が秦の音楽にご堪能だと聞いております。盆罎（酒などを入れる器）を秦王にお捧げして、お互いに楽しみたいと存じます。」秦王は怒って聞き入れなかった。そこで相如は進み出て罎を差し出し、ひざまずいて秦王に請うた。秦王は罎をたたくことを承知しなかった。相如は言った、「〔大王と私の距離は〕わずか五歩です。私の首の血を大王に浴びせさせていただきますぞ。」秦王の側近たちは相如を斬り殺そうとしたが、相如が目をむいて怒鳴りつけると、皆退いた。そこで秦王は、しぶしぶ趙王のために罎を一遍たたいた。相如は振り返って趙の御史を呼び寄せ、次のように書かせた、「某年某月某日、秦王は趙王のために罎をたたいた。」秦の群臣が言った、「趙の十五の都市を献じて、秦王の長寿への祝福としていただきたい。」すると藺相如も言った、「秦の咸陽を献じて、趙王の長寿への祝福としていただきたい。」秦王は酒宴を終えるまで、とうとう趙より優位に立つことはできなかった。趙の本国でも、大いに軍備を整えて秦に備えたので、秦は行動を起こすことができなかった。

1 澠池 今の河南省澠池県の西。

2 廉頗 前二八三―前二四〇。趙の武将。

3 咸陽 秦の都。今の陝西省西安市の北西。

別紙 69

1問 / 4問

次の句形の読みと意味を答えよう。

使_ム A_{マシ} B_セ C_マ

古_{いにしへ}之_の君_ミ有_リ下_カ以_{もつて}千_チ金_{カネ}使_ム涓_{けん}人_{じん}求_メ千_チ里_リ馬_{ウマ}者_ヤ

解答を見る

別紙 70

1問 / 2問

次の句形の読みと意味を答えよう。

不_フ亦_モ一_{ひと}乎_カ

不_フ亦_モ一_{ひと}楽_{レウ}乎_カ

解答を見る

別紙 71

1問 / 7問

次の句形の読みと意味を答えよう。

如_シ一_{ひと}如_シ一_{ひと}

如_シ有_{カバ}下_カ博_{ひろく}施_{シテ}於_ニ民_{タタ}而_ユ能_{よく}濟_{すく}衆_{タタ}何_{ナニ}如_シ

解答を見る

別紙 72

1問 / 1問

次の句形の読みと意味を答えよう。

何_{ナニ}一_{ひと}必_{カナラ}不_フ得_レ已_{ヤム}而_ユ去_{ラバ}於_ニ斯_{ココ}三_ミ者_{タタ}何_{ナニ}先_{マツ}

解答を見る

【言語活動】孔子のエピソードを調べる 参考資料

参考資料：孔子年譜

西暦	年	事 項
五二	1	魯(山東省)の曲阜に誕生。 (一説に、前五一年誕生。)
五〇	3	父の叔梁紇死去。
五〇	3	結婚。(「孔子家語」による。)
五三	20	このころ、魯の大夫季氏に仕え、 やがて魯に仕える。
五元	24	母の顔徵在、死去。
五七	36	季氏に追われて国外に出た昭公の あとを追って、齊に行く。
五〇	43	このころ、齊から魯に帰り、し だいに弟子が増える。
定公	48	季氏の臣の陽虎、専制を始める。 (前五三年に陽虎は国外追放。)
五五	54	魯の司寇となり、国政に参与 する。
五九	55	三桓子(孟氏・叔氏・季氏)の勢 力を抑えようとして失敗。
五七	56	魯を去り、衛に行く。以後十四 年間、曹・宋・鄭・陳・蔡など の諸国を遊説して巡る。
五八	57	衛から陳へ行く途中、匡人に拘 禁される。衛に戻る。
哀公	58	衛から曹、さらに宋へ行く。宋 では、司馬の桓魋に命を狙われ る。宋から鄭、鄭から陳へ行く。 陳に三年間滞在。
五九	62	陳→蔡(楚の邑)。葉から蔡 への帰途、長沮・桀溺に会う。
五九	64	楚の昭王に招かれて行く途中、 陳・蔡の大夫に包囲される。楚 に入り、同年、衛に戻る。
五九	69	衛から魯に帰り、弟子を教育し て経書を整理する。
五九	74	魯で死去。

※丸囲み数字はエピソードに対応。



孔子のエピソード

* 丸囲み数字は年譜に対応。

① 音楽に感動する

〈書き下し文〉

子 齊^{せい}に在りて、韶^{せう}を聞くこと三月^{さんげつ}、肉の味を知らず。曰^いはく、「図らざりき、樂^{らく}を為^{つく}ることの斯^{こゝ}に至らんとは。」と。

〈口語訳〉

孔子が齊の国に滞在し、韶（伝説上の聖人舜^{しゆん}が作ったという音楽）を聞くこと数か月、「心酔のあまり」肉のうまみもわからなかった。そして言うことには、「思いもよらなかった。音楽というのが、これほどまでにすばらしく作ることができるものだとは。」

（述^{じゆつ}而^じ第七）

② 弟子を諭す

〈書き下し文〉

原思^{げんし} 之^{これ}が宰^なと為^なる。之^{これ}に粟^{ぞく}九百を与ふ。辞す。子曰^{子曰}はく、「母^なかれ。以^もつて爾^{なんぢ}の隣里^{りんり}郷党^{きやうたう}に与へんか。」と。

〈口語訳〉

「孔子が魯の太司寇^{たいしこう}となったとき、門人の「原思」がその執事となった。「孔子は」彼に俸禄^{ほうろく}米九百を与えようとしたが、「原思は」辞退した。孔子は言った、「辞退してはいけない。「多すぎるというのなら、」それをお前の隣近所に与えてやればよからう。」

（雍^{よう}也^や第六）

③ 魯を去る

〈書き下し文〉

齊人^{せいひと} 女樂^{じょがく}を歸^{おく}る。季桓子^{きくわんし}之を受け、三日朝せず。孔子行^いく。

〈口語訳〉

齊の人が、「孔子の力で国政盛んとなった魯に」女楽団を贈ってきた。季桓子（魯の大^{たい}夫^ふ）はそれを受け取り、三日も朝廷に出なかった。孔子は「魯国を」去った。

（微^い子^し第十八）

④ 匡に拘禁される

〈書き下し文〉

子 匡に畏れて曰はく、「文王既に没するも、文茲に在らざらんや。天の將に斯の文を喪ぼさんとするや、後死の者 斯の文に与かることを得ざるなり。天の未だ斯の文を喪ぼさざるや、匡人其れ予を如何せん。」と。

〈口語訳〉

孔子が匡の地で危難に遭ったとき、次のように言った、「文王はすでにお亡くなりになったが、その文化はこの我が身に伝わっているぞ。もしも、天がこの文化を滅ぼそうとしているならば、後代の私はそれに携わることではできなかったはずだ。天がまだこの文化を滅ぼさないからには、匡の連中がいったい私をどうしようというのか。どうすることもできまい。」

(子罕第九)

⑤ 衛を去る

〈書き下し文〉

衛の靈公 陳を孔子に問ふ。孔子对へて曰はく、「俎豆の事は、則ち嘗て之を聞けり。軍旅の事は、未だ之を学ばざるなり。」と。明日遂に行く。

〈口語訳〉

衛の靈公が孔子に戦陣についてたずねた。孔子は、「祭器のことなら以前から聞いておりますが、軍隊のことはまだ学んでおりません。」と答えると、翌日すぐに「衛の国を」去ってしまった。

(衛靈公第十五)

⑥ 隠者に会う

〈書き下し文〉

長沮・桀溺 耦して耕す。孔子之を過ぎ、子路をして津を問はしむ。長沮曰はく、「夫の興を執る者は誰と為す。」と。子路曰はく、「孔丘と為す。」と。曰はく、「是れ魯の孔丘か。」と。曰はく、「是れなり。」と。曰はく、「是れならば津を知らん。」と。桀溺に問ふ。桀溺曰はく、「子は誰と為す。」と。曰はく、「仲由と為す。」と。曰はく、「是れ魯の孔丘の徒か。」と。对へて曰はく、「然り。」と。曰はく、「滔滔たる者、天下皆是れなり。而して誰か以つて之を易へん。且つ而其の人を辟くるの士に従はんより、豈に世を辟くるの士に従ふに若かんや。」と。緩して輟めず。子路行きて以つて告ぐ。夫子慨然として曰はく、「鳥獸は与に群れを同じくすべからず。吾 斯の人の徒と与にするに非ずして誰と与にせん。天下 道有らば、丘は与に易へざるなり。」と。

〈口語訳〉

「隠者の」長沮と桀溺が、並んで地を耕していた。孔子がそこを通りかかり、子路に渡し場をたずねさせた。長沮が言った、「あの馬車の手綱を持っている人は誰かね。」子路が「孔丘です。」と言うと、長沮は「それは魯の孔丘かね。」「そうです。」と言うと、長沮は「それならば渡し場を知っているだろう。」と言った。そこで桀溺にたずねると、桀溺は「お前さんは誰かね。」と言った。「仲由です。」と言うと、桀溺は「それでは魯の孔丘の弟子かね。」「そうです。」と答えると、桀溺は「どんどん流れてやまないものは、「この川だけでなく、」世の中すべてがそうだ。誰にこれを改められよう。まあお前さんも、あの者もだめ、この者もいけないと言って人を避けるような人物に従うよりは、世の中を避ける人物に従ったほうがよいのではないかね。」と言って、まいた種の土かけをしてやめなかった。子路が彼らから離れ、このことを申し上げると、先生はがっかりして言われた、「鳥や獣とはいっしょに暮らすことはできない。私は、この人という仲間とっしょにいるのでなくて、誰とっしょにいよう。世界中に道が行われているならば、私、丘は、彼らとともに世の中を改めようなどとはしないのだ。」

（微子第十八）

⑦ 陳・蔡の難

〈書き下し文〉

陳に在りて糧を絶つ。従者病みて能く興ること莫し。子路慍み見えて曰はく、「君子も亦窮すること有るか。」と。子曰はく、「君子固より窮す。小人窮すれば斯に濫る。」と。

〈口語訳〉

陳の国で食糧が尽き、従者たちは疲れて立ち上がることもできなかった。子路が不満な様子でお目にかかって言った、「君子でも困窮することがあるのですか。」すると孔子は言った、「君子ももちろん困窮する。だが、小人は困窮すると取り乱すものだ。」

（衛霊公第十五）

⑧ 弟子の死

〈書き下し文〉

顔淵死す。子曰はく、「噫、天 予を喪ぼせり、天 予を喪ぼせり。」と。

〈口語訳〉

顔淵が死んだ。孔子は言った、「ああ、天は私を滅ぼした。天は私を滅ぼした。」

（先進第十二）



常用漢字表

案	安	嵐	宛	扱	圧	握	悪	噉	愛	挨	哀	亜	あ
アン	ヤスイ	アラシ	アテ	アツカウ	アフ	アク	ワライ	アイ	アイ	アイ	アハレ	ア	
異	尉	胃	畏	為	威	委	依	医	囲	位	衣	以	暗
コイ	イ	イ	イ	オミ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	ク
壳	一	育	域	緯	遺	慰	維	違	意	彙	椅	偉	萎
イ	ヒトツ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ	イ
韻	隱	飲	陰	淫	院	員	咽	因	印	引	芋	茨	逸
イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン	イン
英	泳	永	え	雲	運	浦	鬱	唄	雨	羽	宇	右	う
エイ	エイ	エイ	エイ	ウン	ウン	ウラ	ウツ	ウタ	アメ	ウ	ウ	ウ	ウ
悦	駅	液	益	疫	易	衛	銳	影	詠	營	榮	映	
エツ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ	エキ
煙	園	援	媛	宴	怨	炎	沿	延	円	閲	謁	越	
ケン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン	エン
央	凹	王	汚	お	艶	緑	演	塩	鉛	遠	猿		
オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ	オウ
億	億	屋	岡	横	奥	翁	桜	殴	欧	旺	押	住	応
オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク	オク
化	下	か	穂	温	恩	音	卸	俺	乙	虞	臆		
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ

常用漢字表

この表は、「常用漢字表」(平成二十一年閣内閣告示)をもとに、常用漢字二一三六字を字音により五十音順に配列したものである。訓だけ認められているものは訓により示した。漢字の下のかたかなは實ひらがなは訓太字は「送り」がなの付「け方」による送りがなを示す。傍線を付した音調は用法の供いものである。色字の漢字は小学校の配当漢字を示す。

常用漢字表

家	夏	架	科	苛	河	果	価	佳	花	何	仮	可	加	火
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
蚊	課	稼	箇	歌	寡	靴	禍	暇	嫁	過	渦	貨	菓	華
カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ	カ
拐	怪	改	戒	快	会	灰	回	介	餓	雅	賀	芽	画	我
カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ
壊	潰	解	楷	塊	階	開	絵	械	皆	界	海	悔		
カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ	カイ
柿	垣	骸	概	該	蓋	慨	街	涯	崖	害	劾	外	貝	諧
カキ	カキ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ	ガイ
学	穫	獲	確	閣	隔	較	覚	郭	殼	核	格	革	括	角
マダ	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク	カク
轄	褐	滑	葛	割	渴	喝	活	括	潟	掛	頸	額	藥	岳
カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ	カフ
乾	陷	看	卷	冠	官	肝	完	缶	汗	甘	刊	干	刈	鎌
カク	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン
慣	漢	感	幹	寬	勸	閑	間	款	棺	敢	換	堪	喚	寒
ナカ	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン
丸	鑑	艦	韓	観	簡	環	館	還	憾	緩	監	飲	閑	管
マル	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン	カン

忌 希 岐 氣 机 危 伎 企 願 願 頑 眼 玩 岩 岸 合
 い け け け け け け け け け け け け け け け
 喜 龜 規 寄 基 歸 鬼 飢 起 記 既 軌 紀 季 祈 奇 汽
 む け け け け け け け け け け け け け け け け
 欺 偽 宜 技 騎 機 輝 機 器 旗 毀 棄 貴 棋 期 揮 幾
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 九 虐 逆 脚 客 却 詰 喫 吉 菊 議 犧 擬 戲 儀 疑 義
 こ け け け け け け け け け け け け け け け け
 救 宮 糾 級 急 泣 究 求 白 朽 吸 休 旧 丘 弓 及 久
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 凶 漁 御 魚 距 許 虛 拳 捫 拒 居 巨 去 牛 窮 喫 給 球
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 教 強 脅 胸 恭 恐 狹 扶 峽 況 協 供 享 京 狂 叫 共
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 玉 極 局 曲 凝 業 曉 仰 驚 響 競 鏡 矯 橋 境 郷
 た け け け け け け け け け け け け け け け け
 区 銀 吟 襟 謹 錦 緊 禁 僅 筋 琴 勤 菌 金 近 均 斤 巾
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 綠 熊 窟 掘 屈 申 隅 遇 偶 空 愚 惧 具 驅 苦 句
 け け け け け け け け け け け け け け け け

契 型 係 茎 徑 系 形 刑 兄 群 郡 軍 薰 勲 訓 君
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 稽 慄 慶 詣 繼 携 傾 輕 景 敬 螢 經 溪 揭 啓 恵 計
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 結 決 血 穴 欠 析 激 擊 劇 隙 鯨 迎 芸 鷄 警 趙
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 健 軒 拳 劍 兼 儉 梟 研 建 肩 券 見 件 犬 月 潔 傑
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 懸 驗 頭 蘭 鍵 謙 賢 憲 權 遣 絹 獻 嫌 検 堅 園 險
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 古 戸 己 巖 源 減 舷 現 原 限 弦 言 玄 幻 元
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 五 顧 銅 鼓 誇 雇 湖 庫 個 枯 故 弧 孤 虎 股 固 呼
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 功 孔 勾 公 工 口 護 誤 語 基 悟 娛 後 吳 午 互
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 坑 行 考 江 好 后 向 光 交 甲 広 巧
 け け け け け け け け け け け け け け け け
 郊 荒 紅 皇 洪 恒 厚 侯 肯 拘 幸 効 更 攻 抗 孝
 け け け け け け け け け け け け け け け け

港 慌 喉 黄 梗 控 康 高 降 貢 航 耕 校 候 香
 号 乞 購 講 鋼 衡 興 稿 酵 綱 構 鉦 溝 項 絞 硬
 駒 骨 獄 酷 穀 黒 国 刻 谷 告 克 豪 傲 剛 拷 合
 佐 左 懸 堡 魂 紺 痕 混 婚 根 恨 昆 困 今 頃 込
 彩 裁 宰 碎 采 妻 災 再 才 挫 座 鎖 詐 差 唆 砂 查 沙
 在 埒 際 載 歲 塞 催 債 裁 最 菜 細 齋 祭 濟 採
 刷 札 冊 咲 錯 搾 酢 策 索 柵 昨 削 作 崎 罪 財 劑 材
 傘 産 慘 蛋 棧 參 山 三 血 雜 擦 撮 察 殺 撈 刹
 司 史 仕 氏 止 支 子 士 暫 斬 殘 贊 酸 算 散
 肢 社 枝 姉 始 刺 使 私 志 伺 至 系 死 旨 矢 市 四

飼 資 詩 試 嗣 齒 詞 紫 視 脂 紙 恣 師 施 指 思 姿
 治 侍 事 児 似 自 耳 次 寺 字 示 諮 賜 擘 雌 誌
 疾 室 失 叱 七 軸 識 式 鹿 璽 餌 磁 辭 慈 滋 時 持
 煮 斜 敎 捨 射 者 舍 車 社 写 芝 實 質 漆 嫉 濕 執
 守 主 手 寂 弱 若 爵 枳 酌 借 尺 蛇 邪 謝 遮
 儒 需 授 呪 受 寿 趣 種 腫 酒 珠 殊 首 狩 取 朱
 習 羞 終 袖 修 臭 秋 拾 宗 周 秀 舟 州 囚 収 樹
 重 柔 住 充 汁 十 襲 蹴 醜 酬 慙 集 衆 就 遇
 出 熟 塾 縮 肅 淑 宿 祝 叔 縱 獸 銃 決 從
 処 遵 潤 準 順 循 純 殉 准 盾 巡 旬 瞬 春 俊 術 述

常用漢字表

小	除	徐	叙	序	助	如	女	諸	緒	署	暑	庶	書	所	初
こ	のぞく	じょ	じょ	じょ	すけ	にょ	にょ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ
こ	ぞく	じょ	じょ	じょ	すけ	にょ	にょ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ
こ	ぞく	じょ	じょ	じょ	すけ	にょ	にょ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ	しよ
消	将	宵	昭	沼	松	昇	承	招	尚	肖	抄	床	匠	召	少
け	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう
け	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう
け	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう	しやう
硝	焦	焼	晶	掌	勝	訟	紹	章	涉	商	唱	笑	称	祥	症
しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
鐘	礁	價	賞	衡	懂	障	彰	詳	照	獎	傷	象	証	詔	粧
かね	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
かね	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
かね	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう	しょう
蒸	量	場	情	常	刺	淨	城	乗	状	条	冗	丈	上		
む	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう
む	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう
む	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう	じやう
辱	職	囑	触	飾	殖	植	食	拭	色	釀	讓	錠	娘	壤	繩
じやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく
じやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく
じやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく	しやく
真	浸	振	娠	唇	神	津	信	侵	辛	身	芯	臣	伸	申	心
ま	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
ま	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
ま	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
刃	人	親	薪	震	審	新	慎	寝	診	森	進	紳	深	針	
は	にん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
は	にん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
は	にん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん	しん
衰	粹	帥	炊	垂	吹	水	囟	須	腎	尋	陣	甚	迅	尽	仁
すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい
すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい
すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい	すい
是	瀬	寸	裾	杉	据	数	崇	枢	髓	随	穗	睡	遂	醉	推
ぜ	ぜ	すん	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す
ぜ	ぜ	すん	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す
ぜ	ぜ	すん	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す	す

常用漢字表

政	斉	青	性	征	姓	制	声	西	成	生	正	世	井		
せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
誓	製	精	誠	聖	勢	晴	婿	盛	清	逝	凄	省	性	星	
ちか	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
ちか	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
ちか	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい	せい
惜	隻	脊	席	析	昔	赤	石	斥	夕	税	醒	整	請	靜	
おし	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき
おし	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき
おし	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき	せき
舌	説	節	摂	雪	設	接	窃	拙	折	切	籍	績	績	跡	責
した	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ
した	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ
した	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ	せつ
旋	栓	扇	染	洗	洩	泉	專	宣	先	占	仙	川	千	絶	
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
鮮	織	薦	選	選	線	潜	銭	箋	踐	詮	腺	羨	煎	戰	船
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん	せん
組	粗	措	素	粗	祖	阻	狙	緇	膳	漸	禪	然	善	前	全
ぐ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ
ぐ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ
ぐ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ	そ
搜	倉	送	草	莊	相	奏	走	争	早	壯	双	礎	邇	塑	訴
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
総	層	想	僧	装	葬	瘦	喪	創	窓	爽	曾	曹	掃	巢	桑
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう	そう
即	藏	贈	蔵	憎	憎	像	造	藻	騷	霜	燥	操	踪	槽	遭
そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく
そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく
そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく	そく

常用漢字表

率	卒	続	賊	属	族	俗	測	側	逮	捉	息	則	促	足	束
ソフ・リッ ひきいる	ソフ つづける	ゾク つづく	ゾク ゾク	ゾク ゾク	ゾク ゾク	ゾク ゾク	ソク はかる	ソク はか	ソク はか	ソク はか	ソク はか	ソク はか	ソク はか	ソク はか	ソク はか
駄	情	墮	唾	妥	汰	多	他	た	遜	損	尊	孫	村	存	
ダ	ダ	ダ	ツバ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ
滞	隊	貸	替	逮	袋	堆	泰	帶	退	胎	息	待	耐	体	対
タイ とどまる	タイ かす	タイ かえる	タイ かえる	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく	タイ ふく
諾	濯	託	拓	卓	沢	沢	宅	淹	題	第	台	代	大	戴	態
ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ	ダ
嘆	短	淡	探	胆	炭	單	担	旦	丹	誰	棚	奪	脱	達	但
タン なげく	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み	タン み
知	池	地	ち	壇	談	暖	彈	斷	段	男	団	鍛	誕	綻	端
チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ	チ
茶	室	秩	築	蓄	逐	畜	竹	緻	置	稚	痴	遲	致	恥	値
チャ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ	シ
駐	鑄	酎	衷	柱	昼	注	抽	忠	宙	冲	虫	仲	中	嫡	着
チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ	チュ
貼	朝	烏	頂	釣	眺	彫	張	帳	挑	長	町	兆	庁	弔	貯
ヘ	ア	ウ	イ	エ	オ	カ	キ	ク	ケ	コ	サ	シ	ジ	チ	チ
珍	沈	抄	勅	直	懲	聰	調	澄	潮	嘲	微	跳	腸	超	
チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン	チン

常用漢字表

て	鶴	爪	坪	潰	塚	痛	通	墜	椎	追	つ	鎮	賃	陳	朕
テ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ	ツ
偵	停	通	庭	訂	帝	貞	亭	邸	抵	底	定	弟	廷	呈	低
テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ	テイ
鉄	哲	迭	濁	敵	適	滴	摘	笛	的	泥	諦	締	艇	程	堤
テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ	テツ
と	電	殿	伝	田	填	転	添	展	点	店	典	天	撤	徹	
デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン	デン
冬	刀	怒	度	努	奴	土	賭	塗	渡	都	途	徒	妬	吐	斗
フウ	カタ	オ	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド	ド
党	透	討	桃	烏	唐	凍	倒	逃	到	東	豆	投	当	灯	
ドウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ	トウ
糖	踏	稻	統	筒	等	答	登	痘	湯	棟	搭	塔	陶	盜	悼
ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ
瞳	導	銅	働	道	童	堂	動	胴	洞	同	騰	闊	藤	騰	頭
ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ	ドウ
頓	豚	屯	届	突	凸	枋	読	独	毒	篤	德	督	得	特	匿
トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン	トン
二	に	難	軟	南	鍋	謎	梨	内	奈	那	な	井	晏	鈍	貪
ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ	ニ

常用漢字表

年	熱	寧	認	忍	妊	任	尿	乳	入	日	虹	肉	匂	式	尼
とし	あつ	ね	にん	しの	にん	まか	にゅう	にゅう	にゅう	にち	にじ	にく	にお	しき	あま
派	波	把	は	濃	農	脳	能	納	悩	の	燃	粘	捻	念	
は	なみ	は	こい	のう	のう	のう	のう	おさ	なや	なや	もや	ねん	ねん	ねん	
売	葦	廃	敗	排	配	俳	肺	背	杯	拝	罵	婆	馬	霸	破
う	わ	す	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	はい	の	ば	ば	ば	や
博	舶	剝	迫	泊	拍	伯	白	賠	買	媒	陪	培	梅	倍	
はく	はく	はく	はく	はく	はく	はく	はく	はい	かい	かい	かい	かい	かい	かい	
拔	伐	髮	発	鉢	八	肌	畑	箸	箱	爆	縛	漠	麦	薄	
ぬ	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	は	
畔	班	版	板	阪	坂	判	伴	汎	帆	犯	汜	半	反	閥	罰
はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん
皮	比	ひ	盤	蛮	番	晩	藩	繁	範	頒	煩	搬	飯	斑	販
かわ	ひ	ひ	ばん	ばん	ばん	ばん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん	はん
碑	費	扉	悲	被	秘	疲	飛	卑	非	肥	披	彼	批	否	妃
ひ	つい	と	かな	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ	ひ
氷	百	姫	筆	泌	必	匹	肘	膝	鼻	微	備	美	眉	尾	避
こ	ひゃく	ひめ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ	ひつ
頻	賓	貧	洪	品	猫	描	病	秒	苗	標	漂	評	票	依	表
ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん	ひん

常用漢字表

赴	負	訃	附	阜	怖	府	扶	布	付	父	夫	不	ふ	瓶	敏
しゆ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	びん	びん
風	封	舞	部	武	侮	譜	賦	膚	敷	腐	普	富	符	婦	浮
ふう	ふう	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ	ぶ
霧	紛	粉	物	仏	沸	弘	覆	複	腹	福	復	幅	副	服	伏
きり	ふ	ふ	ぶ	ぶ	は	は	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ	ふ
陸	柄	並	併	兵	平	丙	聞	文	分	奮	憤	墳	噴		
りく	へい	へい	へい	へい	へい	へい	きこ	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん	ぶん
変	返	辺	片	蔑	別	癖	壁	壁	米	餅	蔽	弊	幣	堀	閑
か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か	か
墓	募	母	舗	補	捕	哺	保	歩	ほ	勉	便	弁	編	遍	偏
ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ	ぼ
傲	俸	胞	泡	法	放	抱	宝	奉	邦	芳	包	方	簿	募	慕
がう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう	ほう
防	忘	妨	坊	忙	乏	亡	縫	褒	飽	豊	蜂	報	訪	崩	砲
ぼう	わう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう
北	頰	謀	膨	暴	貌	貿	棒	帽	傍	望	紡	剖	冒	某	肪
きた	けつ	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう	ぼう
麻	盆	凡	翻	奔	本	堀	勃	沒	撲	墨	僕	睦	牧	朴	木
あさ	ぼん	はん	はん	ほん	ほん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん	ぼん

常用漢字表

満	万	抹	末	又	枕	膜	幕	埋	味	枚	妹	毎	魔	磨	摩
マン	マン	マツ	マツ	また	まくら	マク	マク	マク	マイ	マイ	マイ	マイ	マ	マ	マ
みちる	まん	まん	まん	また	まくら	マク	マク	マク	マイ	マイ	マイ	マイ	マ	マ	マ
務	才	む	眠	民	妙	脈	蜜	密	岬	魅	味	未	み	漫	慢
ツム	ツム	ム	ミ	ミン	ミョウ	ミツ	ミツ	ミツ	ミサキ	ミ	ミ	ミ	ミ	マン	マン
つとめる	つとめる	む	ねむる	たみ	ミョウ	ミツ	ミツ	ミツ	みさき	ミ	ミ	ミ	ミ	マン	マン
滅	鳴	銘	盟	冥	迷	明	命	名	め	娘	霧	夢	無		
メツ	ナク	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ	メイ		
めつ	なぐ	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい	めい		
門	黙	目	網	猛	耗	盲	妄	毛	模	茂	も	麵	綿	面	免
カモン	ダク	メ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	ソウ	モ	モ	モ	モ	メン	メン	メン	メン
かもん	だく	め	そう	そう	そう	そう	そう	も	も	も	も	めん	めん	めん	めん
由	ゆ	聞	躍	薬	訳	約	役	厄	弥	野	夜	冶	や	問	紋
ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	ユ	モン	モン
よし	よし	きこ	はな	やく	やく	やく	やく	やく	やく	やく	やく	やく	やく	もん	もん
遊	裕	猶	湧	郵	悠	幽	勇	有	友	唯	癒	輸	論	愉	喻
ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ	ユウ
あそぶ	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう	ゆう
洋	妖	羊	用	幼	預	誉	余	予	与	よ	優	融	憂	誘	雄
ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ
やう	やう	やう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう
養	窯	踊	瘍	様	腰	溶	陽	葉	揺	揚	庸	容	要		
ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ	ヨウ		
やう	やう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう	よう		
雷	来	羅	裸	拉	ら	翼	翌	欲	浴	沃	抑	曜	謡	擁	
ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	ライ	
らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	らい	
痢	理	里	利	吏	リ	欄	藍	濫	覧	卵	乱	辣	酪	落	絡
リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ	リ
り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り	り

常用漢字表


硫	隆	粒	竜	留	流	柳	略	慄	律	立	陸	離	璃	履	裏
リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ	リュウ
りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう	りゅう
瞭	療	寮	領	僚	量	陵	獵	涼	料	良	兩	了	慮	虜	旅
リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ	リョウ
りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう	りょう
令	れ	類	累	累	涙	瑠	る	臨	隣	輪	倫	厘	林	緑	力
レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ	レイ
れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい	れい
劣	列	歴	曆	麗	齡	隸	靈	零	鈴	例	戾	勵	冷	礼	
レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ	レツ
れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ	れつ
弄	勞	老	露	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路	路
ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ	ロウ
ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう	ろう
話	和	わ	論	麗	録	六	龍	漏	樓	廊	浪	朗	郎		
ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ	ワ
わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ	わ
腕	湾	梓	惑	脇	賄										
ウデ	ウデ	ウデ	ウデ	ウデ	ウデ										
うで	うで	うで	うで	うで	うで										

—15—

社名入る 資料添ウェブ
106-253 (書名入る)

虫の鳴き声 参考動画

参考動画：きりぎりす（こおろぎ）の声



動画：NHK/Getty Images

社名入る 資料添ウェブ
106-253 (書名入る)


参考動画：まつむし（すすむし）の声



動画：栗林慧/JAPAN4K/アフロ

社名入る 資料添ウェブ
106-253 (書名入る)

参考動画：ひぐらしの声



動画：NHK/Getty Images

106-253 (書名入る) / 巻末図録・地図 / 図録 / 古文参考図録 (古典に表れる動植物) / 虫の鳴き声 参考動画

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

雅楽に使用する楽器 参考動画

参考動画：笙 (合奏：笙・横笛・箏)



雅楽同友会/ユニフォンプレス

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

参考動画：三の鼓 (合奏：三の鼓・横笛・箏)



雅楽同友会/ユニフォンプレス

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

参考動画：笏拍子 (合奏)



雅楽同友会/ユニフォンプレス

社名入る 教科書ウェブ
106-253 (書名入る)

参考動画：琵琶 (合奏：琵琶・箏・箏)



雅楽同友会/ユニフォンプレス